Panasonic

パーソナルコンピューター 操作マニュアル

品番 CF-S51Wシリーズ

95 98

説明書の構成

取扱説明書	操作マニュアル（本書）
安全上のご注意や電源を入れる/切るなどの基本操作、本機が思ったとおりに動かないなど困ったときの対処方法について説明しています。	画面上で参照できるオンラインマニュアルです。 便利な機能や省電力機能、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。 『操作マニュアル』の見かたについては、取扱説明書をご覧ください。

もくじ（取説：『取扱説明書』をご覧ください。）

本書の読みかた

ご使用前に

表記の約束

・キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。
（例） N み は N や み と表記します。

・あるキーを押しながら、別のキーを押すような操作の説明は、次のように「+」を使って表記します。
（例） Fn + F6

・「スタート」→[Windowsの終了]などは、[スタート]をクリックした後、[Windowsの終了]をクリックすることを意味します。
（内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインターを置くだけでいい場合もあります。）

・ Windows 95 は、Microsoft® Windows® 95 のみについての説明です。
Windows 98 は、Microsoft® Windows® 98 のみについての説明です。

・Windowsで使われる用語については、実際の画面と本書の記載が多少異なる場合があります。画面表示に従ってください。

省電力用語について

Windows 95*1上でサスペンドおよびハイバーネーションと呼んでいる機能を、Windows 98*2上ではそれぞれスタンバイおよび休止状態と呼びます。
以下に名称の違いをまとめています。

	メモリー以外の電源オフ	・メモリーの内容→ハードディスクへ保存 ・コンピューターの電源オフ
Windows 95	サスペンド	ハイバーネーション
Windows 98	スタンバイ	休止状態

本書では、Windows 95の用語を使用しています。

*1 正式名称は、Microsoft® Windows® 95 operating systemです。本書ではWindowsまたはWindows 95と表記します。
*2 正式名称は、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemです。本書ではWindowsまたはWindows 98と表記します。

使用上のお願い

・お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
・本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
・お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い

●LCDパネル（ディスプレイ）は衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネルを持って、持ち運ばないでください。
●LCDパネル（ディスプレイ）は精度の高い技術で製造されていますが、ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができることがあります。これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。
コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。
●Windowsやアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ 🛢 ）の点灯中は、電源を切らない。
●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・変化・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。
●データの機密保護としてセキュリティー機能を活用する。（→94ページ）

使用上のお願い

フロッピーディスクのデータ保護

フロッピーディスクを使用する場合は、別売りのフロッピーディスクドライブと周辺接続ケーブル（→108ページ）が必要です。

●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたりしない。
フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。

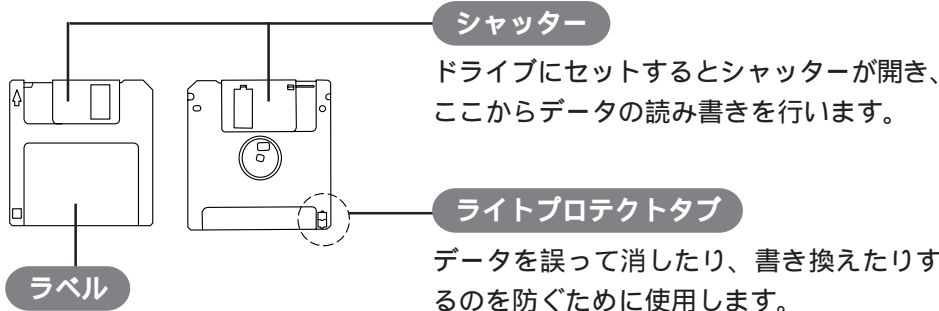
●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。

●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
重要なデータを保存している場合におすすめします。
これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。

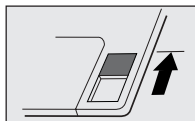
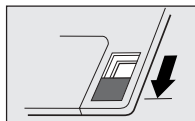
●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。
・シャッターを手で開けない
・磁気を帯びたものを近づけない
・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
・ラベルを重ねて貼らない

シャッター

ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ラベル

保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

ライトプロテクトタブ

データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

書き込み可能な状態

書き込み禁止の状態

お手入れのしかた

●ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
●ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。
中性の台所用洗剤以外の洗剤（弱アルカリ性洗剤など）を使用すると、塗装がはげるなど、塗装面に影響を与えることがあります。

お願い

・ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。塗装がはげるなど、塗装面に影響を与える場合があります。また、市販のクリーナーや化粧品の中にも、塗装面に影響を与える成分が含まれている場合があります。
・水や洗剤を直接かけたり、スプレーで噴きかけたりしないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

補足説明について

補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[補足説明]）には、本製品についての最新情報などが記載されています。あわせてご覧ください。

コンピューターウィルス

●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。
特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
・コンピューターを起動するとき
・データを入手したとき
フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

各部の名称と働き

前面

スマートポインター

指先で操作してください。
ペンやつめなどでは反応しません。
→103ページおよび取扱説明書

クリックボタン

→103ページおよび取扱説明書

状態表示ランプ

HDDアクセスランプ HDD動作中：緑色

バッテリー状態表示ランプ

　バッテリーパックの充電状態を表示します。(→64ページ)

電源表示ランプ

　電源オン時：緑色　　サスペンド時：緑色点滅

ラッチ

状態表示ランプ

NumLk 1・Caps Lk A・ScrLk ⇅ 機能時：緑色

電源スイッチ POWER

後ろにスライドし、本体電源の 入/切を切り換えます。

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上押し続けると、ピーという連続音が鳴り、サスペンドやハイバーネーションに入らず自動的に電源が切れます。

セキュリティーロック

市販のセキュリティー用のケーブルを使用し、机などにつないで盗難を防止します。接続のしかたはケーブルに付属の取扱説明書をご覧ください。

通風孔

PCカードスロット

PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。

パネルスイッチ

LCDパネルを閉じると、このスイッチが押されて、セットアップユーティリティーの「パネルスイッチ」の設定に従い「LCDオフ」、「サスペンド」または「ハイバーネーション」になります。（→98ページ）LCDパネルが開いている状態でスイッチを押してサスペンドまたはハイバーネーション状態になった場合は、電源スイッチをスライドしてリジュームしてください。
（省電力用語について →4ページ）

お願い

「サスペンド」に設定している場合、電源表示ランプが緑色点滅するまではLCDパネルを開けないでください。途中でLCDパネルを開けると、リジュームできない場合があります。その場合は、再度、LCDパネルを閉じた後、数秒たってからLCDパネルを開けてください。

各部の名称と働き

左側面

赤外線通信ポート

赤外線通信を行うときに使用します。

拡張バスコネクター EXT.

周辺接続ケーブル*を使って、外部FDD*やI/Oボックス*を取り付けます。(*別売り)

電源端子

付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

USBコネクター

電源を入れたままで、USB対応のマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。
使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。

Windows 95

サスペンドやハイバーネーション機能を使用する場合は、デバイスマネージャの設定でUSBを使用不可に設定しておいてください。（→85ページ）

お願い

USB機器には、サスペンドやハイバーネーション機能に対応していないものがあります。対応していない機器をご使用の場合は、サスペンドやハイバーネーション機能を使用する前に、その機器を取り外してください。
また、設定、接続のしかたについては、USB機器に付属の説明書をご覧ください。

モデムコネクター

→40ページ

LANコネクター

→44ページ

オーディオ出力端子

市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

マイク入力端子

市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。
外部マイク接続時、内蔵マイクは使用できません。

底面

バッテリーパック挿入口

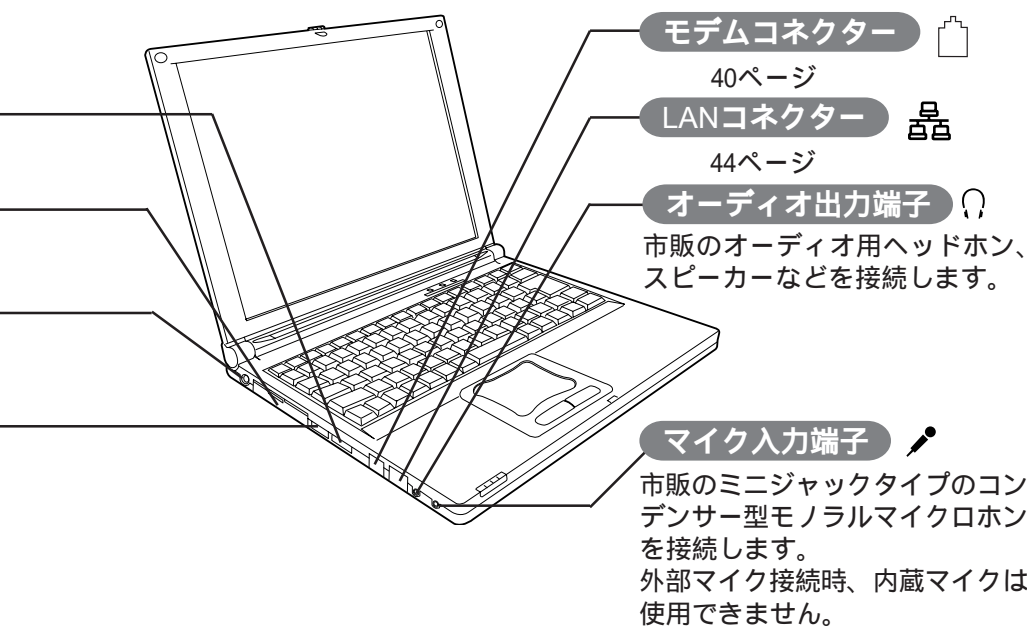
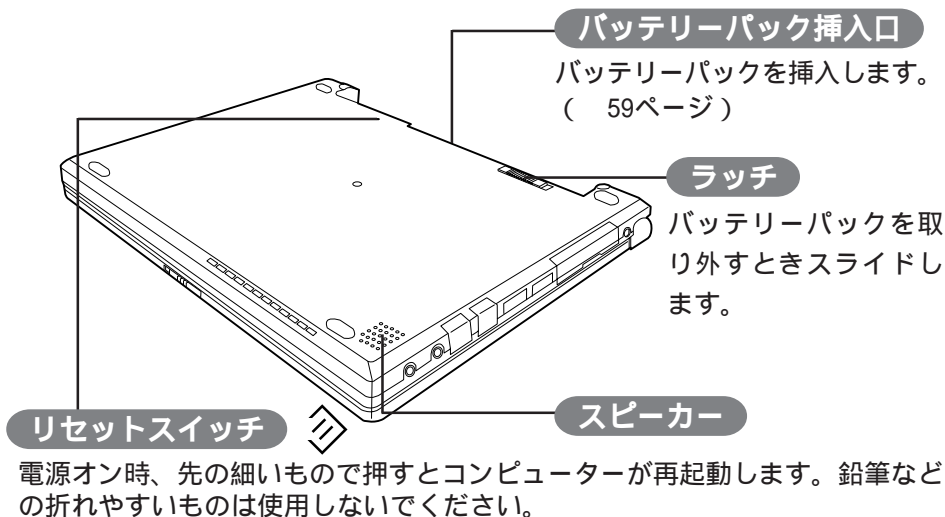
バッテリーパックを挿入します。
（→59ページ）

ラッチ

バッテリーパックを取り外すときスライドします。

スピーカー

リセットスイッチ

電源オン時、先の細いもので押すとコンピューターが再起動します。鉛筆などの折れやすいものは使用しないでください。

お願い

何らかの問題が発生して、コンピューターが操作不能状態になったとき以外は、使用しないでください。保存していないデータは失われます。

万一のトラブルに備えて

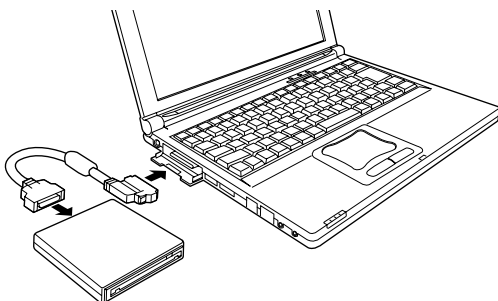
コンピューターが正常に動作しなくなったり、ハードディスクの内容が消えてしまったりした場合、「再インストール」と呼ばれる操作を行って工場出荷状態に戻すことができます。再インストールには、以下の方法でバックアップディスクを作成しておく必要があります。

バックアップディスクを作成します

必ず、お買い上げ後すぐにバックアップディスクを作成し、付属のプロダクトリカバリーCD-ROMと共に大切に保管しておいてください。
（再インストールが必要になってからでは作成できません。）

バックアップディスクには、以下のものがあります。
・ファーストエイドFD
・アップデートFD（次ページの手順5で作成画面が表示された場合のみ）
<準備するもの>
・フロッピーディスクドライブ（別売）
・周辺接続ケーブル（別売）
・2HDのフロッピーディスク1枚[*1]（別売）
[*1] 次ページ手順5で「アップデートFD」の作成画面が表示された場合、フロッピーディスクはその分を加えた枚数が必要になります。

1 操作を終わる（→『取扱説明書』）

2 フロッピーディスクドライブを取り付ける。(詳しくは→70ページ)

3 ディスプレイを開けて電源を入れる。

Windowsの画面が表示されます。

4 [スタート]をクリックし、[プログラム]→[Panasonic]の順にポインターを置き、[バックアップディスク作成]をクリックする。

5 バックアップディスクを順に作成する。

画面の指示に従って操作してください。
作成したバックアップディスクには、それぞれフロッピーディスクラベルを貼ってください。

お願い

- フロッピーディスクドライブのランプ点灯中に、フロッピーディスクを取り出したり、電源を切ったりしないでください。また、サスペンドやハイバーネーション機能を使用しないでください。
- バックアップディスクの作成中は、その他のアプリケーションソフトは実行しないでください。（ウィルスチェック等の常駐ソフトは解除してください。）
- バックアップディスクの作成中に「コピーするファイルが足りません。」というメッセージが表示された場合は、[OK]を選んで操作を終了し、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
- ディスク作成後、再起動するときに時間がかかることがあります。

◆再インストールのための準備

再インストール時には、CD-ROMドライブ（別売り）が必要です。再インストールの必要が起こったときのために、使用するCD-ROMドライブにあわせて、「ファーストエイドFD」を設定しておいてください。（→次ページ）

準備するもの

- できあがった「ファーストエイドFD」
- 付属の「プロダクトリカバリーCD-ROM」
- 別売りのフロッピーディスクドライブ
- 別売りのCD-ROMドライブ[*1]（推奨品：下記パナソニック製ドライブ）

CD-ROMプレーヤー
　KXL-807AN,KXL-808AN,KXL-810AN,KXL-820AN[*2],KXL-830AN
CD-R/RWドライブ
　KXL-RW10AN[*2]
DVD-ROMドライブ
　LK-RV8171DZ[*2],KXL-DV10AN[*2]

[*1] PDドライブ、CD-ROMプレーヤーなどを総称して「CD-ROMドライブ」と呼びます。
[*2] インターフェースカードのスイッチを16 bitに設定して使用してください。

万一のトラブルに備えて

①フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブを接続する。
（フロッピーディスクドライブの接続　→70ページ
CD-ROMドライブの接続　→CD-ROMドライブに付属の説明書）
②「ファーストエイドFD」を書き込み可能な状態にしてフロッピーディスクドライブにセットし、CD-ROMドライブとコンピューターの電源を入れる。
③●推奨CD-ROMドライブをお使いのかたは
画面のメッセージに従って、使用するCD-ROMドライブを選んでください。「ファーストエイドFD」の中のCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルの内容が自動的に書き換えられます。
●推奨品以外のCD-ROMドライブをお使いのかたは
「9.その他のCD-ROMドライブ」を選択してください。その後、使用するCD-ROMドライブやインターフェースカードに付属のフロッピーディスクから、「ファーストエイドFD」へ必要なドライバーをコピーし、「ファーストエイドFD」中のCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルの内容を書き換えてください。
ドライブによってはカードマネージャー（カードサービスとソケットサービス）が必要なものもあります。詳しくは、ドライブやインターフェースカードに付属の説明書をご覧ください。

使いかた
基本

お願い

空き容量不足でファーストエイドFDにドライバーをコピーできない場合があります。その場合、不要な推奨ドライブのドライバーを削除してください。
推奨ドライブのドライバー
A:\KXL808、A:\KXL810、A:\KXL820、A:\KXLRW10、A:\KXLDV10、
A:\RV8171フォルダー内のファイル
ただし、上記以外のファイルは削除しないでください。また、削除を行う前に「ファーストエイドFD」の複製フロッピーを作成しておくことをおすすめします。

④MS-DOSのプロンプト（A:\>）が表示されたら、「\tools\shutdown」と入力して Enter を押し Y を押す。
コンピューターの電源が切れます。
⑤コンピューターの電源を入れ、「再インストールを開始しますか」というメッセージが表示されたら、 N を押す。

お願い

必ず、 N を押してください。間違って Y を押してしまった場合は、その後の画面で「4.再インストールを中止する」を選んでください。

⑥「プロダクトリカバリーCD-ROM」をセットし、MS-DOSのプロンプトに続けて「dir L:」と入力して Enter を押し、Lドライブを認識できるか確認する。

お知らせ

Lドライブが認識できない場合は、下記のことを確認してください。
- CD-ROMドライブは正しく接続されているか？電源が入っているか？
- 推奨ドライブを使用している場合、前ページ手順 ③で使用するドライブを正しく選んだか？
  （→下記「お知らせ」）
- 推奨以外のドライブを使用している場合、必要なドライバーがそろっているか？CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの内容が正しいか？
- KXL-820AN,KXL-DV10AN,KXL-RW10AN,LK-RV8171DZを使用している場合、インターフェースカードのスイッチを16 bitに設定しているか？

⑦認識できることを確認したら、「A:\>」プロンプトに続けて「\tools\shutdown」と入力して Enter を押し Y を押す。
コンピューターの電源が切れます。

お知らせ

使用するCD-ROMドライブを変更する場合などには、下記に従って操作してください。

(1)「ファーストエイドFD」をセットして、コンピューターを起動する。
（CD-ROMドライブは取り外しておいてください。）

(2)「CD-ROMドライブが見つかりません...」と表示されたら「A:\>」プロンプトに続けて「\tools\seldrv」と入力して Enter を押す。

(3)前ページ手順 ③～④の操作の後、CD-ROMドライブを接続して、⑤～⑦の操作を行う。

お願い

再インストール時には、「再インストールのための準備」を行ったCD-ROMドライブと「ファーストエイドFD」をご使用ください。
違うものを使用すると、CD-ROMドライブを正しく認識できないため、再インストールを行うことができません。

「サスペンド」と「ハイバーネーション」機能

「サスペンド」や「ハイバーネーション」機能を使うと、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

サスペンドとハイバーネーションの違い

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
サスペンド	メモリー	速い	必要
ハイバーネーション	ハードディスク	やや遅い	不要

お知らせ

「サスペンド」、「ハイバーネーション」は、Windows 98では「スタンバイ」、「休止状態」と呼ばれています。本書では、Windows 95の用語を使って説明しています。

使いかた

「サスペンド」や「ハイバーネーション」機能を使って終了する

お願い

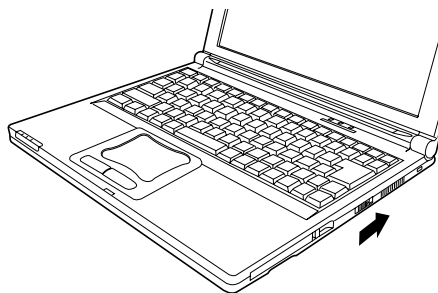
「サスペンド」や「ハイバーネーション」機能を使う前に、必要なデータは保存してください。

便利

1 サスペンドまたはハイバーネーションを設定する。

工場出荷時には、「サスペンド」に設定されています。
①セットアップユーティリティーを起動する。（→89ページ）
②「省電力管理」メニューから「パワースイッチ」を選ぶ。
③[サスペンド]または[ハイバーネーション]に設定して、「終了」メニューを選び保存する。

2 電源スイッチをスライドする。

ピッという確認音が鳴ってから手を離すと、サスペンドまたはハイバーネーションになります。
（Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→101ページ）

お願い

- 電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上押し続けると、ピーという連続音が鳴り、サスペンドやハイバーネーションに入らず自動的に電源が切れます。（Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。）
- 処理中はマウス、モデム、その他のシリアルデバイスには触れないでください。操作を再開したときシステムに認識されないことがあります。そのようなときには、本体を再起動するか、デバイスを初期化し直してください。
- 処理中は、リセットスイッチを押さないでください。保存していないデータは失われます。
- WindowsやMS-DOS以外のオペレーティングシステム（OS）ではサスペンドおよびハイバーネーションに入れないことがあります。
- 以下の場合は、サスペンド（タイムアウト機能を含む）およびハイバーネーションに入らないでください。これらの機能や周辺機器が正常に動作しない場合があります。
    - 通信ソフト動作中・ネットワーク使用中
    - オーディオの録音・再生中
    - PCカード（SCSI・ATAカード）などの周辺装置の使用中
    - フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブ・CD-ROMドライブ・USB機器などの使用中
- 常駐ソフトウェアがある場合は、サスペンドやハイバーネーションに入れないことがあります。
- しばらくの間使用しないときにモニターの電源を切る機能*とスクリーンセーバー（［コントロールパネル］→［画面］→［スクリーンセーバー］）の両方を設定していると、ディスプレイが正常に復帰しなかったり、サスペンドやハイバーネーションから正常にリジュームできない場合があります。
- ハイバーネーションに入るには、内蔵ハードディスク上に、メモリーデータ書き出し用として一定の領域が必要です。領域は、工場出荷時に確保してありますが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには、確保し直す必要があります。詳しくは、「ハイバーネーション用データ領域の作成」（→『取扱説明書』）をご覧ください。
- シリアルモデムやPCMCIAカードモデムのリングリジュームは動作しません。
  *省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」（→55ページ）
- サスペンドおよびハイバーネーション機能を使う場合は、バッテリーパックを抜かないでください。正常にリジュームしない場合があります。

*省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」のプロファイルで設定されているビデオスタンバイタイマー（→57ページ）

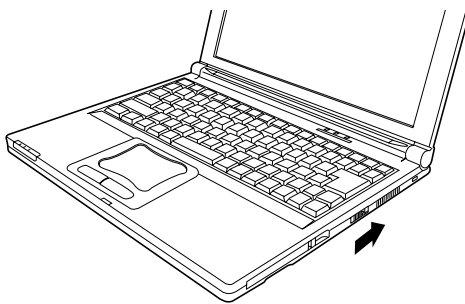
（次ページに続く）

「サスペンド」と「ハイバーネーション」機能

お知らせ

- Fn + F7 を押してハイバーネーション状態に入ることができます。
- 以下のいずれかの方法でサスペンド状態に入ることができます。
  - Fn + F10 を押す。
  - Windows 95
    [スタート]をクリックして「サスペンド」を選ぶ。
  - Windows 98
    [スタート]→[Windows の終了]をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。
  - タスクバーの をを右クリックして「スタンバイ」を選ぶ。

操作を再開する

電源スイッチをスライドする。

お知らせ

- サスペンドやハイバーネーションから次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを「リジュームする」と言います。

お願い

- Windowsが完全に起動するまで、キーボード、マウスなどを操作しないでください。
- バッテリー容量が少ない状態でサスペンドやハイバーネーションに入るとリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターをつないでから電源を入れてください。

使いかた

便利

クイックラウンチャー機能

クイックラウンチャー機能を使用すると、スマートポインターを使って、より簡単にコンピューターの操作を行うことができます。
クイックラウンチャー機能には、大きく分けて次の3つがあります。

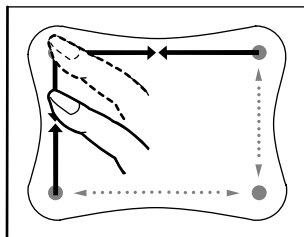
＜スマートポインター連携1＞（アクションポイント機能）→21ページ

スマートポインターのコーナーの●をダブルタップするだけで、以下のことを行うことができます。

- ラウンチャーの起動
- ウィンドウを閉じる、最大化するなど設定されているウィンドウ操作
- Enter、Tab、Esc キーの押下操作
- 登録しておいたアプリケーションソフトの起動

＜スマートポインター連携2＞（アクションライン機能）→22ページ

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションソフトを起動したりすることができます。

コーナーの●に指の腹を置き、ゆっくりと中央部まで水平または垂直にこすってください。

- 力を入れすぎたり、早くこすりすぎたりすると、正しく動作しない場合があります。

使いかた　便利

クイックラウンチャー機能

＜ラウンチャー＞→31ページ

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、ウィンドウを閉じる、最大化するなど登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったり、またアプリケーションソフトを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

お願い

タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていない場合は、前述の3つのクイックラウンチャー機能は動作しません。
クイックラウンチャー機能を使用する場合は、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックして、クイックラウンチャーアイコンが表示されたことを確認してください。工場出荷時には、Windows起動後、自動的に表示されるように設定されています。

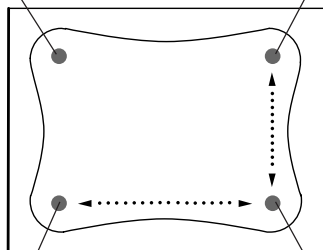
お知らせ

アプリケーションソフトによっては、登録されているウィンドウ操作が動作しないものもあります。

スマートポインター連携

◆スマートポインター連携1（アクションポイント機能）

スマートポインターのコーナーにある4つの●をダブルタップするだけで、登録されているアプリケーションソフトを起動したり、ウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったりすることができます。

（例）工場出荷時

使いかた

便利

クイックラウンチャー機能

◆スマートポインター連携2（アクションライン機能）

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションソフトを起動したりすることができます。

（例）工場出荷時

左上コーナーから下方向に中央部までこすると、カーソル位置のショートカットメニュー（右ボタンをクリックしたときに表示されるメニュー）が表示されます。

・指の腹で押さえながらゆっくりとこすってください。軽く早くこすると、カーソル位置がずれて、希望するショートカットメニューが表示されないことがあります。

右上コーナーから左方向に中央部までこすると、開かれているすべてのウィンドウが最小化されます。（全最小化操作）

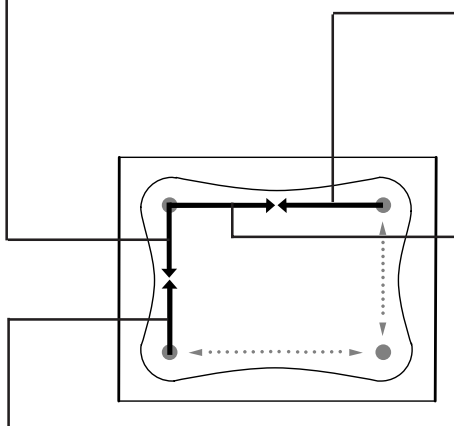
開かれているウィンドウがない場合は、上記の全最小化操作で最小化されたウィンドウを元の大きさに戻します。

・他の方法（タイトルバー上の▁をクリックするなど）で最小化されたウィンドウは、この操作では元に戻すことはできません。また、全最小化操作を続けて行った場合は、最後の操作で最小化されたウィンドウのみを元に戻します。

左上コーナーから右方向に中央部までこすると、アクティブウィンドウのメニューが表示されます。

どのウィンドウもアクティブでない状態では、Windowsの「スタート」メニューが表示されます。

・アプリケーションソフトによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウでは、動作しないことがあります。

左下コーナーから上方向に中央部までこすると、Windowsのスタートメニューが表示されます。

お願い

スマートポインター連携1、2の機能を使用する場合：
・タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→20ページ「お願い」）
・ラウンチャーを起動しているときには、この機能は働きません。ラウンチャーを終了させてください。（→35ページ）

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2機能を一時的に中止したい場合：
タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックし、プルダウンメニューから該当するメニューを選んでチェックマークを付けてください。

パッドボタンを使わない：４コーナーの動作を中止します。
左上を使わない：左上コーナーの●の動作を中止します。
右上を使わない：右上コーナーの●の動作を中止します。
左下を使わない：左下コーナーの●の動作を中止します。
右下を使わない：右下コーナーの●の動作を中止します。

スマートポインター連携1と2を中止したコーナーは、通常の基本操作領域（クリックやスクロールなどを行う領域）として機能します。

◆環境設定（スマートポインター連携1、2）

スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。
また、3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。

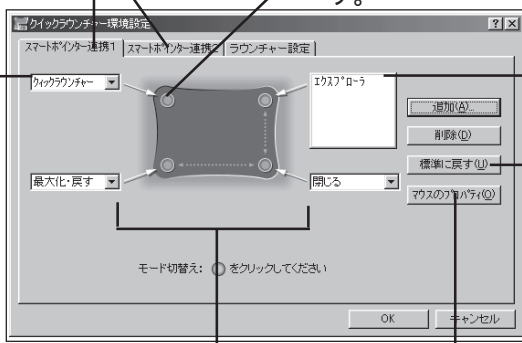
1 「環境設定」プログラムを起動する。

（Windows 95の画面例）

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをダブルクリックする。
または、クイックラウンチャーアイコンをクリックして、[環境設定]をクリックする。

クイックラウンチャー機能

以降の画面は「スマートポインター連携1」を例にしています。

2 「スマートポインター連携1」タブまたは「スマートポインター連携2」タブをクリックする。

選択ボックス
画面上の◎または⇨が緑色の場合（選択ボックス表示時）は、すでに登録されている項目（ウィンドウの操作・キー押下操作・ラウンチャー起動）の中から、ひとつを選んで設定することができます。

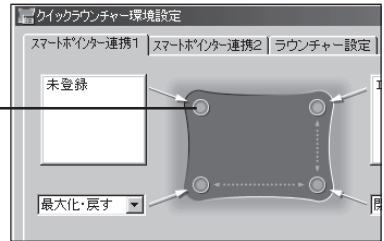
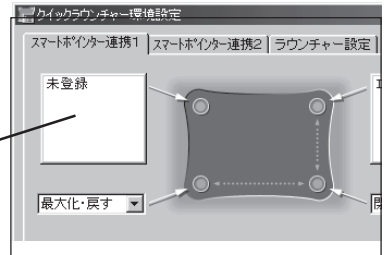
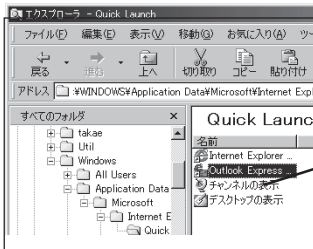
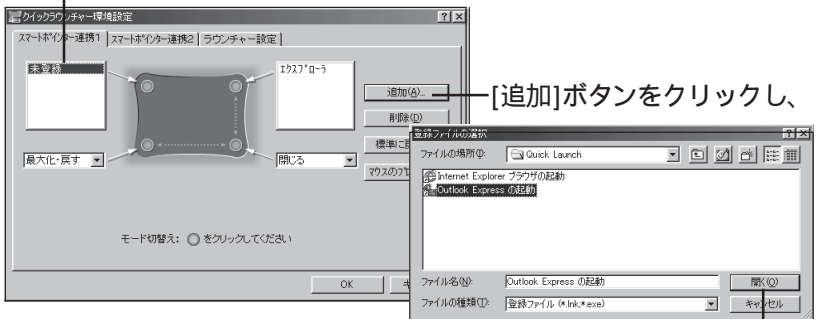
登録ボックス
画面上の◎または⇨が黄色の場合（登録ボックス表示時）は、ひとつの◎または⇨に対して複数のアプリケーションソフトを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションソフトをまとめて登録しておくと便利です。

使いかた　便利

3 アプリケーションソフトを登録・削除する。
または、すでに登録されている操作の中から、ひとつの操作を選んで設定・解除する。

以降の画面は、左上コーナーの●を例にあげて説明します。

●アプリケーションソフトを登録する場合（◎または⇨は黄色）

①スマートポインター画面上の◎または⇨をクリックして、黄色にする。

②登録したいアプリケーションソフトのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。（登録ボックスにファイルがコピーされます。）

または、登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから、

[追加]ボタンをクリックし、

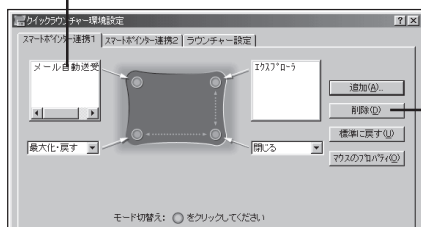
登録したいアプリケーションソフトを選び、[開く]をクリックする。

クイックラウンチャー機能

お知らせ

登録できるファイルは、ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

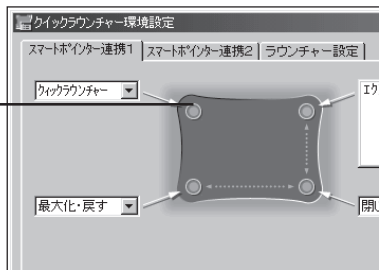
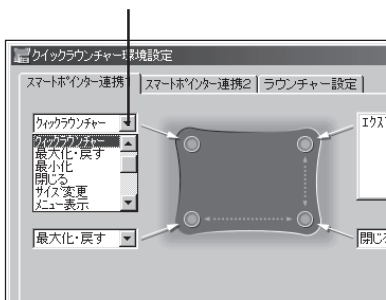
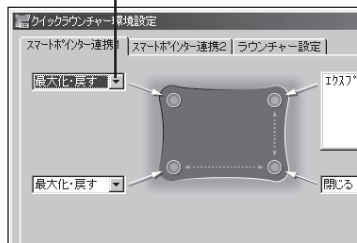
●登録したアプリケーションソフトを削除する場合（◎または⇨は黄色）

前ページ手順 ②で、
登録ボックスの削除したい項目をクリックして反転表示させてから、

[削除]ボタンをクリックする。

●すでに登録されている操作の中から選択する場合（◎または⇨は緑色）

①スマートポインター画面上の◎または⇨をクリックして、緑色にする。

使いかた

便利

②選択ボックスの右端の▼をクリックし、

項目の中から設定したい操作を選ぶ。

お知らせ

- どのウィンドウもアクティブでない状態で「メニュー表示」機能を動作させると、「スタート」メニューが開きます。
- アプリケーションソフトによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して「メニュー表示」機能を動作させた場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- どのウィンドウもアクティブでない状態で「閉じる」機能を動作させると、「Windowsの終了」画面が開きます。
- 「サイズ変更」機能を実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

●すでに登録されている操作を何も選択しない場合

（◎または⇨は緑色）

上記手順②で、「なし」を選んでください。

お知らせ

「なし」に設定すると、そのコーナー部分は指で触れても反応しなくなります。キー入力時など右上や左上コーナーに指が触れる場合には、「なし」に設定しておくと便利です。
ただし、その際には、タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのメニューで「パッドボタンを使わない」や「左上を使わない」「右上を使わない」にチェックマークを付けないでください。（→23ページ）

4 設定内容を確認して、「環境設定」プログラムを終了する。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

クイックラウンチャー機能

◆マウスのプロパティ設定

スマートポインターや別売りのマウスの動作の詳細を設定します。

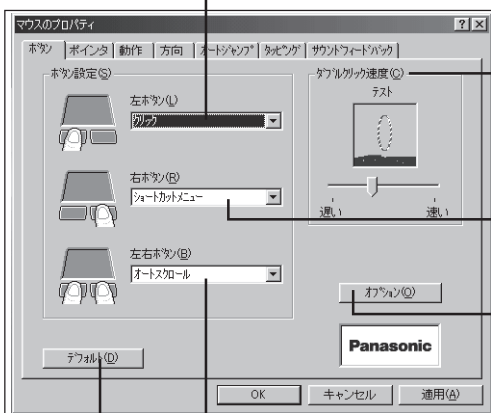
1 「マウスのプロパティ」画面を開く。

「環境設定」プログラムの[スマートポインター連携1]タブまたは[スマートポインター連携2]タブをクリックして、[マウスのプロパティ]をクリックする。

または、タスクバーのAlps Pointアイコンをダブルクリックするか、「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。

2 各設定を行う。

ここでは、主な設定について説明します。

左ボタンを押したときの機能を設定します。

ボタンもしくは操作面をダブルクリックしたときの速度を調節できます。（ラウンチャー使用時のダブルタップ速度もここで調節されます。）

右ボタンを押したときの機能を設定します。

（→次ページ）

左ボタンと右ボタンを同時に押したときの機能を設定します。

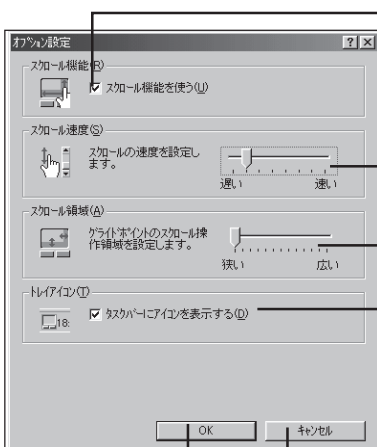
「ボタン」設定画面のすべての設定（オプション設定の内容も含む）を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

お知らせ

- スクロール機能（オートスクロール機能を含む）は、アプリケーションソフトによって動作しない場合があります。
  また、すばやく繰り返し動作させると、反応が遅くなる場合があります。
- 工場出荷状態では、ウィンドウを開いたときなどにカーソルを自動的にデフォルトのボタン位置に移動させる設定になっています。この機能を使用しない場合は、「オートジャンプ」をクリックし、「デフォルトボタン」のチェックマークを外してください。

使いかた

便利

「マウスのプロパティ」の「ボタン」設定画面で、[オプション]ボタンをクリックすると、オプション設定画面が表示されます。

スマートポインターのスクロール機能を使用するときは、ここにチェックマークを付けます。

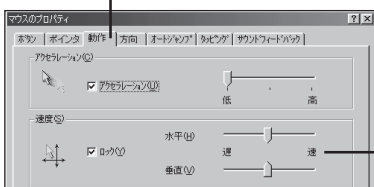
スクロール機能が有効の場合、その速度を調節します。

スマートポインターのスクロール操作領域を設定します。
また、各コーナーの●の操作領域を変更したい場合も、ここで調節してください。スクロール領域の縦と横が交差した部分が各コーナーの●の操作領域になります。

タスクバーに「マウスのプロパティ」起動用のアイコンを表示したい場合は、チェックマークを付けます。

変更した設定を保存せずにオプション設定を終わります。

変更した設定を保存してオプション設定を終わります。

[動作]タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。

マウスカーソルの移動速度を調節します。ここで設定した値は、外付けのUSBマウスやシリアルマウスなどに対しても有効です。

お知らせ

マウスによっては、移動速度を調節しても、有効にならない場合があります。

クイックラウンチャー機能

[タッピング]タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。

操作面をタップする速度を調節できます。

ここにチェックマークを付けると、ドラッグした後、手を離してもドラッグ状態を保持するように設定できます。また、保持状態の解除方法を「自動解除」と「タッピング又はクリックで解除」から選ぶことができます。「自動解除」を選んだ場合は、その時間を設定できます。

ここにチェックマークを付けると、キー入力時はスマートポインターをタップしても反応しません。「有効になるまでの時間」で、キー入力後、タップ機能を有効な状態に戻すまでの時間を「短⟷長」の間で設定します。工場出荷時には「短」に設定されています。必要に応じて調節し直してください。

「タッピング」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

お願い

「タッピング又はクリックで解除」に設定している場合は、ドラッグロック中には、サスペンドやハイバーネーションに入らないでください。リジューム後にディスプレイに何も表示されなくなります。その場合は操作面をタップまたはボタンをクリックしてください。

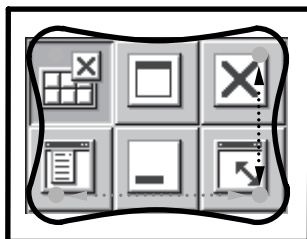
3 設定を終了する。

各設定画面で[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、マウスのプロパティ設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、マウスのプロパティ設定を終わります。
[適用]をクリックすると、変更内容を保存します。マウスのプロパティ設定は終了しません。

ラウンチャー設定

ラウンチャー画面（下記）から操作を選ぶだけで、登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Esc、Tab キーの押下操作を行ったりすることができます。また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションソフトを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。
ラウンチャーには、次の２種類の操作モードがあります。各モードは環境設定（ラウンチャー設定）（→35ページ）で切り替えることができます。工場出荷時には、パッド操作モードに設定されています。

＜パッド操作モード＞
パッド操作モード時には、スマートポインターは6区画※または9区画※に分けて管理されています。スマートポインターの各区画は、ラウンチャー画面の各区画に対応しています。スマートポインターの各区画をダブルタップすると、その区画に対応したラウンチャー画面の区画に表示されている操作を行うことができます。
※何区画に分けるかは、環境設定（ラウンチャー設定）（→35ページ）で切り替えることができます。工場出荷時には、6区画に設定されています。

スマートポインターとラウンチャー画面の対応図（一例）

＜マウス操作モード＞
マウス操作モード時には、スマートポインターは区画管理されていません。通常どおりスマートポインターやキーボードを使ってラウンチャー画面のアイコンの位置にカーソルを移動してからダブルクリックすると、登録されている操作を行うことができます。

クイックラウンチャー機能

1 ラウンチャーを起動する。

スマートポインターの左上コーナーの●をダブルタップする。

お願い

ラウンチャーを起動するときは

- タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていることを確認してください。（→20ページ「お願い」）
- スマートポインター上のコーナーの●をダブルタップすると、ラウンチャーが起動するように、「環境設定（スマートポインター連携1）」（→21ページ）で設定しておいてください。工場出荷時には、左上コーナーの●をダブルタップすると起動するように設定されています。
- ラウンチャー起動時は、スマートポインター連携機能は働きません。（→21ページ）

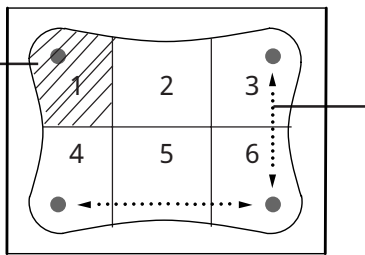
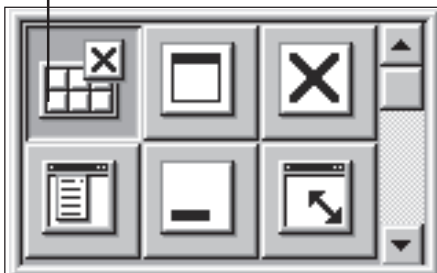
2 登録されている操作を実行する。

●パッド操作モード時

スマートポインター

スマートポインターの区画１をダブルタップすると、

ラウンチャー画面の区画１に表示されている操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

ラウンチャー画面

スマートポインターのここをこすると、ラウンチャー画面がスクロールします。
また、カーソルキーを使って画面をスクロールさせることもできます。

ラウンチャー画面のアイコン上にカーソルを置くと、そのアイコンの機能説明が、画面上に数秒間表示されます。

使いかた 便利

お願い

ダブルタップ時のお願い

・２回目のタップ時にも、すばやく手を離してください。操作面に触れたままにするとうまく動作しません。
・スマートポインター上の各区画の中央部をタップしてください。各区画の境界部をタップするとうまく動作しないことがあります。

お知らせ

・パッド操作モード時には、カーソルをラウンチャー画面の外に移動できません。また、ラウンチャー画面上でのカーソルの位置は、操作の対象と一致しません。例えば、区画１のアイコンが選ばれていても、スマートポインター上の区画６をダブルタップすると、区画６に表示されている操作が実行されます。
・どのウィンドウもアクティブでない状態で[メニュー]を実行した場合、「スタート」メニューが開きます。
・どのウィンドウもアクティブでない状態で[×]を実行した場合、「Windowsの終了」画面が表示されます。
・メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して[メニュー]を実行した場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
・[サイズ変更]実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。
・アプリケーションソフトによっては、メニューを表示中に、[サイズ変更]や[最大化]などサイズを変更するような機能を動作させた場合、メニュー表示が残ることがあります。また、各ウィンドウ操作機能が動作しない場合があります。

◆各アイコンの機能一覧

- ラウンチャーを閉じる
- ウィンドウを最大化する/戻す
- ウィンドウを閉じる
- ウィンドウのメニューに移動する
- ウィンドウを最小化する
- ウィンドウのサイズを変更する
- Esc キー
- Tab キー
- Enter キー
- スタートメニューを開く
- Windowsの終了メニューを開く
- WORDPADを起動する
- ダイヤルアップネットワーク画面を開く
- クイックラウンチャー環境設定画面を開く

Windows 95

- OutlookTM Express 4を起動する

Windows 98

- OutlookTM Express 5を起動する
- アクセスポイント設定画面を開く

使いかた　便利

クイックラウンチャー機能

●マウス操作モード時

ラウンチャー画面

（Windows 98の画面例：実際の画面と異なる場合があります。）

ここを選んで（紫色表示させて）※ダブルクリックすると、選ばれたアイコンの操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

※ 選択したいアイコンをクリックすると、紫色表示されます。また、カーソルキーを使ってアイコンを選ぶ（紫色表示させる）こともできます。

お知らせ

・マウス操作モード時には、ラウンチャー画面のサイズと位置を必要に応じて変更できます。
　画面のサイズにより、縦スクロールバーが表示されます。また、その際に、アイコンが半分隠れて表示される場合がありますが、動作には問題ありません。

・マウス操作モードとパッド操作モードの切り替えは環境設定で行います。（→次ページ）

3 ラウンチャーを終了する。

●パッド操作モード時

ラウンチャー画面にを表示させた状態で、そのアイコンに対応したスマートポインターの区画をダブルクリックする。
または右ボタンをクリックする。

●マウス操作モード時

ラウンチャー画面のを選んで（紫色表示させて）、ダブルクリックする。

または通常のウィンドウ終了操作（タイトルバー上のをクリックするなど）を行う。

◆環境設定（ラウンチャー設定）

環境設定で、ラウンチャー画面に新しく操作を登録したり、すでに登録されている操作を削除したりします。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

（Windows 95の画面例）

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをダブルクリックする。
または、クイックラウンチャーアイコンをクリックして、[環境設定]をクリックする。

2 「ラウンチャー設定」タブをクリックする。

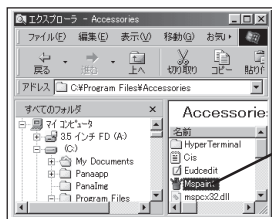
(Windows 98の画面例：実際の画面と異なる場合があります。)

操作モードを切り替えます。
工場出荷時は、パッド操作モードに設定されています。
各操作モードについて詳しくは→31〜35ページ

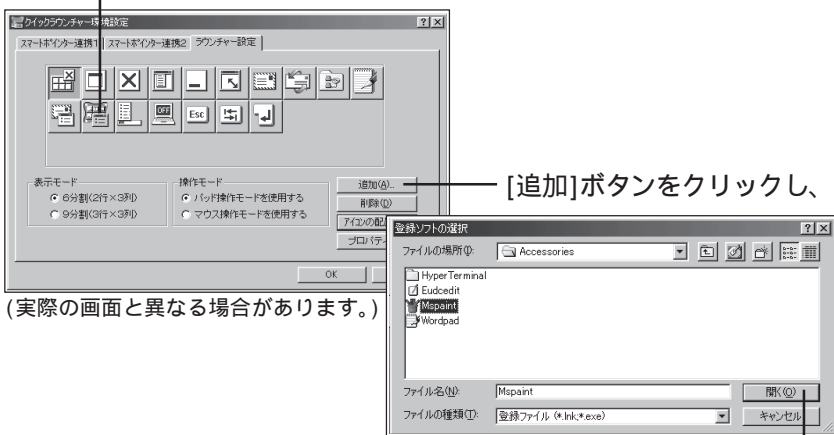
パッド操作モード時に、スマートポインターを6分割して管理するか、9分割して管理するかを切り替えます。工場出荷時には6分割に設定されています。

3 ラウンチャー画面への登録を変更する。

●アプリケーションソフトを登録する場合

登録したいアプリケーションソフトのプログラムを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

または、登録したい位置のアイコンをクリックして青色表示させて

[追加]ボタンをクリックし、

(実際の画面と異なる場合があります。)

登録したいアプリケーションソフトを選び、[開く]をクリックする。

お知らせ

登録できるファイルは、ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

●アプリケーションソフトを削除する場合

削除したいアイコンをクリックして青色表示させて

[削除]ボタンをクリックする。

お知らせ

最大24個まで登録できます。下記のアイコンは削除したり（→上記）、プロパティを変更したり（→39ページ）することができません。

●ラウンチャー画面上のアイコンの順番を並べ替える場合

使う頻度の高い順に並べ替えておくと、ラウンチャー操作がしやすくなります。

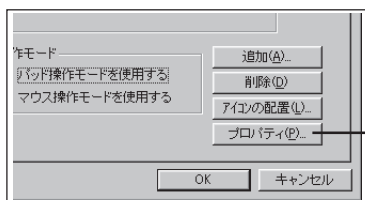
①[アイコンの配置]をクリックし、

②アイコンをドラッグ＆ドロップして、位置を変更する。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24

アイコンは左記のように順番付けられています。
例えば、１を４の位置に移動すると、
２が１の位置へ、
３が２の位置へ、
４が３の位置へというように、順に空いた個所を埋めるように移動します。

③並べ替えが終了したら、[OK]をクリックする。

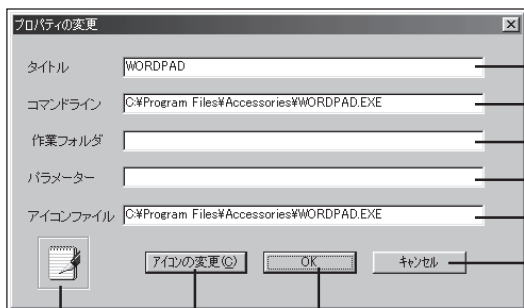
●プロパティを変更する場合

「プロパティの変更」画面が表示されます。

プロパティの変更
タイトル　WORDPAD
コマンドライン　C:¥Program Files¥Accessories¥WORDPAD.EXE
作業フォルダ
パラメーター
アイコンファイル　C:¥Program Files¥Accessories¥WORDPAD.EXE
アイコンの変更(C)　OK　キャンセル

ラウンチャー画面上でアイコンにカーソルを合わせたときに、表示されるメッセージを変更します。

コマンドのリンク先を変更します。

作業ディレクトリーを変更します。

起動パラメーターを変更します。

アイコン用のファイルを変更します。

変更を取り消します。

変更を保存します。

アイコンファイルに設定されているアイコンの中から、アイコンを選択できます。

「アイコンの変更」で選択したアイコンが表示されます。

4 設定内容を確認して、「環境設定」プログラムを終了する。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

内蔵モデムで通信する

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするためには、まず、下記の順序で通信環境を整える必要があります。

◆操作の流れ

電話回線に接続する（→下記）
↓
プロバイダーに加入する*[1]
↓
インターネットや電子メールの通信設定をする*[1]

*[1] 加入するプロバイダーによって、設定の方法および内容が異なります。それぞれのプロバイダーの説明書をご覧ください。

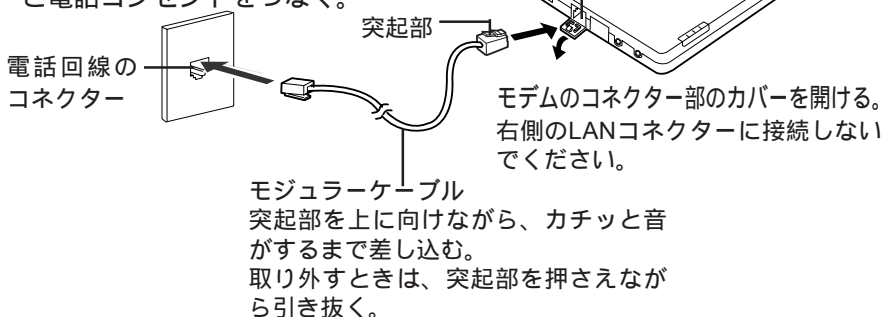
電話回線に接続する

1 モデムと電話回線を接続する。

②付属のモジュラーケーブルで、コンピューターのモデムコネクターと電話コンセントをつなぐ。

モデムコネクター（左側）

①モデムのコネクター部のカバーを開ける。右側のLANコネクターに接続しないでください。

モジュラーケーブル
突起部を上に向けながら、カチッと音がするまで差し込む。
取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜く。

⚠注意

モデムは、日本国内の一般電話回線で使用する

会社、事務所等の内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話のデジタル側コンセントに接続したり、海外で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

お知らせ

- NTT仕様の加入電話回線でご使用ください。（接続できない電話回線→106ページ）
- 電話回線のコネクターの形状によっては工事が必要な場合があります。
（電話回線のコネクターの種類 →106ページ）

2 電話回線の種類を設定する。

①[コントロールパネル]の[モデム]をダブルクリックする。
②[ダイヤルのプロパティ]をクリックする。
③必要な項目を入力し、[閉じる]または[OK]をクリックする。

- Windows 95
  「国番号」では「日本」を選んでください。
  Windows 98
  「国名/地域」では「日本」を選んでください。
- 「市外局番」には使用する地域の市外局番を必ず入力してください。入力しないと「所在地情報」の画面を閉じることができません。
- 携帯電話やPHSをお使いになる可能性がある場合、「市外局番」には「0」を入力してください。
- 「ダイヤル方法」では、回線の種類を正しく選んでください。
  トーン：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がする回線
  パルス：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がしない回線
  ご使用中の電話回線の種類がわからない場合は、お近くのNTTにお問い合わせください。
  携帯電話を使用時はどちらに設定しても通信できます。
  PHS電話でファクス送信を行う場合などは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。

④「モデムのプロパティ」画面で[OK]をクリックする。

お願い

「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべてのモデムに共通です。
「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。

インターネットに接続する

モデムで接続するか、LANで接続するかによって接続方法が異なります。
また、使用するブラウザーソフトウェアによって操作方法が異なります。
詳しくは加入したプロバイダーまたはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

お知らせ

Windows 95

MIDIファイルを含むページは表示できない場合があります。

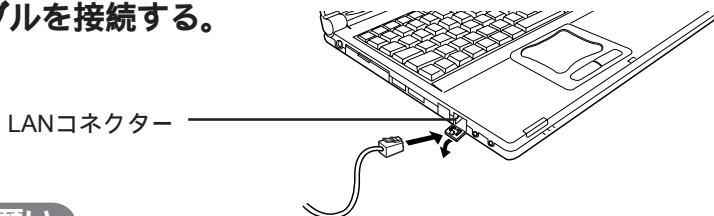
電子メールの送受信を行う

モデムで接続するか、LANで接続するかによって接続方法が異なります。
また、使用するメールソフトによって送受信方法が異なります。
詳しくは加入したプロバイダーまたはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

LANに接続する

本機はLAN機能を内蔵しているため、LANカードなどを使用することなく、ネットワークコンピューターとして使うことができます。

LANへの接続・設定を行う

1 ケーブルを接続する。

お願い

- ネットワークを正常に動作させるために100 m未満のカテゴリー5のツイストペアケーブルを使用してください。
- コネクター部分にカバーが付いているLANケーブルは、接続できない場合があります。事前にご確認ください。

2 電源を入れてセットアップユーティリティーを起動し、「内蔵LAN」を「有効」に設定する。（→93ページ）

工場出荷時は、「有効」に設定されています。

3 Windows 98 内蔵LANドライバーを使用可能に設定する。

工場出荷時の設定では、LAN機能は使用できない設定になっています。以下の手順に従い、LANを使用可能に設定してください。
（ Windows 95 次ページ手順4へ進んでください。）

お願い

[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]を使って、内蔵LANの使用可能・使用不可の設定を変更しないでください。設定が正しく完了しない場合があります。

① 起動しているアプリケーションソフトを終了する。
② [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[内蔵LANドライバ使用設定]を選ぶ。
③[使用可能にする]を選ぶ。

お知らせ

「現在、内蔵LANは使用可能です。」と表示されたときは、[キャンセル]をクリックしてください。

④ 再起動の確認メッセージが表示されたら、[OK]を選ぶ。

お知らせ

・設定は、再起動後に有効になります。
・画面が消えた後、しばらくしても電源が切れない場合は、Enter を押してください。再起動します。

4 プロトコルなどの各種設定を行う。

詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

お願い

・ネットワークコンピューターとして使う場合、用途に応じてその他いくつかの設定が必要となります。詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。
・HUBユニットのリンクランプが点灯せず、ネットワーク機能が使えない場合、以下の操作を行ってください。
  1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[ネットワーク]を選ぶ。
  2 [Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。
  3 [詳細設定]を選ぶ。
  4 「プロパティ」から「Speed」を選び、「値」をお使いのHUBユニットにあった通信速度(10 Mbpsまたは100 Mbps)に設定する。
  5 [OK]で終了する。
・ネットワーク機能をお使いになる場合、サスペンドおよびハイバーネーションの機能は使用しないでください。正常に通信できない場合があります。
また、データの転送中などにタイムアウト機能が働いてサスペンド状態になることを避けるために、省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」で「パワーマネージメントオフ」（→55ページ）を選んでください。

お知らせ

<Wake Up機能>
サーバー等ネットワーク環境がWake Up機能に対応している場合、電源が入っていない本機をネットワーク上の別のコンピューターから起動することができます。（→96ページ）

詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

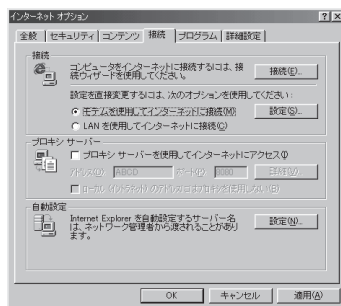
インターネットの接続設定を切り換える

インターネット接続切り換えソフトウェア「クイックコネクションセレクター」を使えば、インターネットエクスプローラーの接続設定を簡単に切り換えることができます。
会社ではLANに接続し、自宅ではモデムを使ってインターネット接続を行う場合など、いろいろな環境でネットワーク接続を行う場合に便利です。

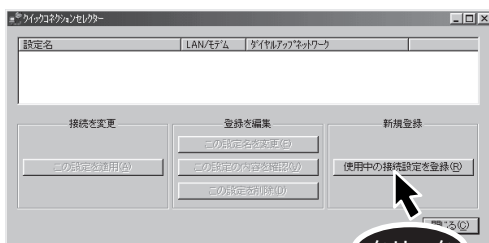
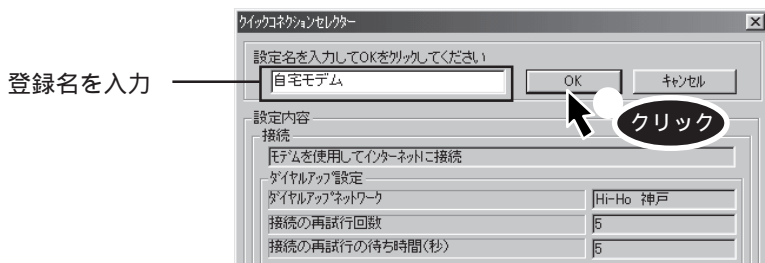
Windows 95 Internet Explorer4.0以外のブラウザーでは動作しません。
Windows 98 Internet Explorer5.0以外のブラウザーでは動作しません。

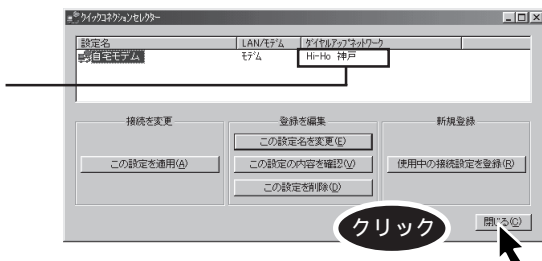
◆LANまたはモデムの接続設定を登録する

1 登録したい接続設定にする。

Internet Explorerを起動し、「表示」メニューから「インターネットオプション」を選んで、「接続」をクリックします。登録したい接続設定になっていることを確認してください。
（必要に応じて「詳細」をクリックし、設定を確認してください。）

2 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]をクリックする。

上記で「クイックコネクションセレクター」を右ボタンでクリックし、[送る]→[デスクトップ（ショートカットとして）]をクリックすると、次回からは、デスクトップのアイコンから素早く起動できます。

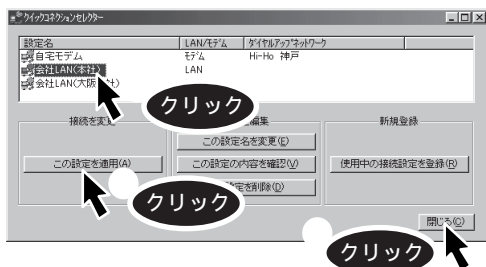
3 「使用中の接続設定を登録」をクリックする。

4 内容を確認し、登録名を入力して[OK]をクリックする。

5 [閉じる]をクリックし、登録を完了する。

登録完了後は、ここに表示されているダイヤルアップネットワーク名から変更を行うと接続切り換えができなくなります。

***1〜5*の手順を繰り返して、最大8つまで接続設定を登録することができます。**

◆接続設定を切り換える

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]をクリックする。

2 使用する接続設定を選び「この設定を適用」をクリックする。

[閉じる]をクリックして切り換えを終了してください。

3 起動中のすべてのアプリケーションソフトを終了し、[スタート]→[Windows の終了]で「コンピュータを再起動する」を選んでWindowsを再起動する。

その他の通信機能を使う

ファクス機能については、市販のアプリケーションソフトを使用するか Windows**のファクス機能（**Microsoft FAX**）をご使用ください。**

赤外線通信をする Windows 95

ここでは、「ケーブル接続」を使用して、赤外線通信を行う方法について説明します。（ Windows 98 →52ページ）

1 互いのコンピューター上で、赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく。

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]をダブルクリックする。
②「デバイスマネージャ」の「ポート（COM＆LPT）」の下に「ラップトップまたはデスクトップのビルトイン赤外線ポート（COM5）」があることを確認し、[OK]をクリックする。

2 Windows 95の赤外線通信ドライバーをインストールする。

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[ハードウェア]をダブルクリックする。
②「ハードウェアウィザード」が起動したら、[次へ]をクリックする。
③「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」と表示されたら、[いいえ]を選んで[次へ]をクリックする。
④「ハードウェアの種類」で[赤外線]を選び、[次へ]をクリックする。
⑤「赤外線デバイスウィザード」が起動したら、[次へ]をクリックする。
⑥「製造元」で「スタンダード赤外線デバイス」を選び、[次へ]をクリックする。
⑦ポートの選択画面で[ラップトップまたはデスクトップのビルトイン赤外線ポート(COM5)]を選び、[次へ]をクリックする。
⑧「赤外線シリアル(COM)ポート」が「COM4」となっていることを確認し、[標準のポートを使用]を選んで、[次へ]をクリックする。
赤外線通信ドライバーがセットアップされます。
⑨[完了]をクリックする。

（次ページにつづく）

赤外線通信をする Windows 95

3 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

設置時に気をつけること

- お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
- ポート間の距離を20cm〜50cmの範囲に設置する。

お知らせ

以下のような場合正常に通信できません。

- お互いのポート間に障害物があるとき
- 近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
- 直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき

（次ページにつづく）

4 赤外線通信を行う。

通信を始める前に

- 「コントロールパネル」の「赤外線モニター」の「オプション」で「次のポートで赤外線通信を使用可能にする」にチェックマーク✓を付ける。
- 「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」の「Windowsファイル」で[通信]の文字をダブルクリックし、「ダイヤルアップネットワーク」および「ケーブル接続」にチェックマーク✓が付いていることを確認する。
- 「コントロールパネル」の「ネットワーク」で[追加]をクリックし、「サービス」を選んで[追加]をクリックする。「製造元」に「Microsoft」、「ネットワークサービス」に「Microsoftネットワーク共有サービス」を選んで[OK]をクリックする。「ネットワーク」画面で[OK]をクリックし、再起動を促すメッセージが表示されたら[はい]をクリックする。
- Windowsが起動し、「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されたら、必ずユーザー名とパスワードを入力する。
- 「コントロールパネル」の「ネットワーク」で「ユーザー情報」をクリックし、「コンピュータ名」と「ワークグループ名」が入力されていることを確認する。

①[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[ケーブル接続]をクリックする。
②一方で[ホスト]を、もう一方で[ゲスト]を選び、[次へ]をクリックする。
③[COM4上のシリアルケーブル]を選び、[次へ]をクリックする。
[COM4上のシリアルケーブル]がないときは[新しいポートのインストール]をクリックしてみてください。
④[完了]をクリックする。
赤外線通信を開始します。

お知らせ

4 Mbpsでの転送速度で処理を行う場合、別途アプリケーションソフトが必要です。

5 赤外線通信を終了する。

「ケーブル接続」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックする。

赤外線通信をする Windows 98

（ Windows 95 →49ページ）

1 互いのコンピューターの赤外線通信ポートを使用可能に設定する。

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[赤外線モニタ]をダブルクリックする。
②「オプション」の「赤外線通信を使用可能にする」の左側の□をクリックしてチェックマークを付け、[OK]をクリックする。

2 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

設置時に気をつけること

・お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
・ポート間の距離を20 cm～50 cmの範囲に設置する。

お知らせ

以下のような場合、正常に通信できません。
・お互いのポート間に障害物があるとき
・近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
・直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき
省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」(→55ページ)による省電力機能を働かせているとき、正常に通信できない場合があります。

（次ページにつづく）

3 赤外線通信を行う。

通信を始める前に

互いのコンピューターで赤外線ポートが使用可能になっていることを確認してください。[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[赤外線モニタ]→[状態]で確認できます。

①通信する両方のコンピューターで[マイコンピュータ]→[赤外線の受信側]をクリックする。
②ファイルを送信する側のコンピューターで、[ファイルの送信]を選ぶ。
③送信するファイルを選び、[開く]を選ぶ。
ファイルは、受信側のコンピューターの「My Received Files」に送られます。

お知らせ

4 Mbpsでの転送速度で処理を行う場合、別途アプリケーションソフトが必要です。

省電力設定をする

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力のコツ！

●使わないときは電源を切る（→『取扱説明書』）

● Fn + F2 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する
（→101ページ）

● Fn + F10 でサスペンド状態にしてから席を外す（→102ページ）
サスペンド状態に入ると、操作を再開するまでメモリー以外の電源が切れ、電力の消費が抑えられます。操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

お願い

通信ソフト動作中およびネットワーク使用中は、サスペンド状態（タイムアウトも含む）にしないでください。ネットワーク機能が正常に動作しない場合があります。

●省電力機能を設定する（→55ページ）
省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」を設定する。

お願い

Windows 95
サスペンドやハイバーネーション機能を使用するときは、USBを使用不可にしてください。USBを使用可能にしていると正常に動作しません。（→85ページ）

お知らせ

Windows 95
「ディスクドライブ」（[コントロールパネル]→[パワーマネージメント]）の省電力モードに切り換える機能は使用しないでください。設定内容が正常に動作しない場合があります。
また、「パワーマネージメント」の「詳細」の「電話が鳴ったらコンピュータを元の状態に戻す」は動作しません。

Windows 98
「電源設定」（[コントロールパネル]→[電源の管理]）の各種タイムアウト設定は使用しないでください。設定内容が正常に動作しない場合があります。

使いかた　モバイル

PowerPanel™で省電力設定をする

PowerPanelの主な省電力機能

・タイムアウト（タイマー）機能
しばらくの間コンピューターを放置した時に自動的にサスペンド状態に入ったり、LCDやハードディスクドライブの電源を切ったりすることができます。

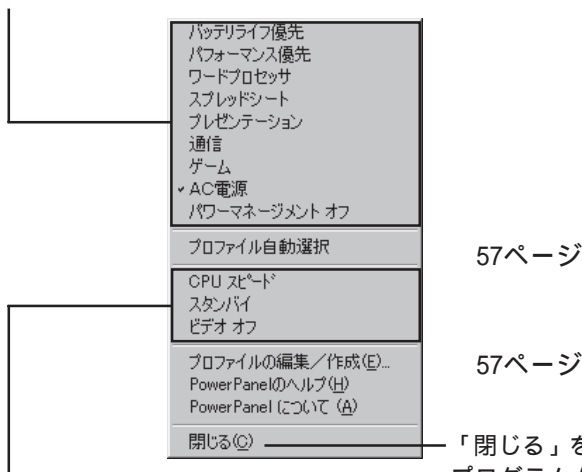
・CPUスピード変更
CPUスピードを遅くして、電力の消費を抑えることができます。
また、使用するアプリケーションソフトにあわせて、CPUスピードとタイムアウト機能を自動的に設定することもできます。（→57ページ「プロファイルの自動選択」）

◆PowerPanelメニューの表示

タスクバーの[アイコン]を右ボタンでクリックすると、次のようなポップアップメニューが表示されます。

プロファイル（→56ページ）
PowerPanelは、さまざまな使用状況にあわせた省電力プロファイルを用意しています。各プロファイルごとに、CPUスピード、サスペンド状態になるまでの時間、LCDやハードディスクの電源を切るまでの時間などが設定されています。
バッテリー残量や用途にあわせてプロファイルを1つ選択してください。

→57ページ

→57ページ

インスタントコマンド（→58ページ）
インスタントコマンドは省電力をすぐに働かせたいときに使います。

「閉じる」を選ぶとPowerPanelプログラムが終了します。（常駐が解除されます。）
コンピューターを再起動すると、PowerPanelプログラムも、起動します。

省電力設定をする

◆PowerPanelのプロファイル

「バッテリライフ優先」
バッテリーパックの長時間稼動を目的とした設定になっています。CPU速度は遅くなります。

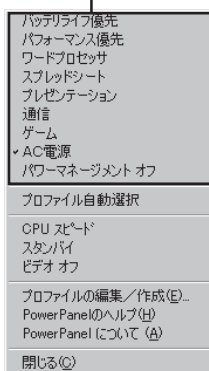
「パフォーマンス優先」
処理速度など、パフォーマンスを優先した設定になっています。

「ワードプロセッサ」「スプレッドシート」「プレゼンテーション」「通信」「ゲーム」
それぞれワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、通信ソフト、ゲームソフトを使う場合に最適な設定になっています。

プロファイル

バッテリライフ優先
パフォーマンス優先
ワードプロセッサ
スプレッドシート
プレゼンテーション
通信
ゲーム
✓AC電源
パワーマネージメント オフ
プロファイル自動選択
CPU スピード
スタンバイ
ビデオ オフ
プロファイルの編集／作成(E)...
PowerPanelのヘルプ(H)
PowerPanel について (A)
閉じる(C)

「AC電源」
ACアダプターを接続すると自動的にこの設定になります。

「パワーマネージメントオフ」
省電力機能を使用しない設定です。プロファイルの中で最も電力消費される設定です。

お願い

- LAN、モデム、赤外線通信ポート、シリアルコネクターなどを使って通信を行う場合に省電力機能を使うと、データの転送中などにタイムアウト機能が働いてサスペンド状態になったり、通信が正常に行われない場合があります。通信機能を使う場合、プロファイルは「パワーマネージメントオフ」または「通信」を選んでください。
- 電源を入れたとき（再起動したとき）、ACアダプターが接続されている場合は「AC電源」、接続されていない場合は「バッテリライフ優先」が自動的に選択されます。
- 「PowerPanel」でディスプレイの明るさは設定できません。必要に応じて、Fn ＋ F2 で設定してください。
- スクリーンセーバーを使う場合 Windows 98
  スクリーンセーバーを使用するときは、プロファイルは「パワーマネージメントオフ」を選んでください。「パワーマネージメントオフ」以外に設定すると、LCDのタイムアウト機能が働いてディスプレイが正常に復帰しなかったり、サスペンドやハイバーネーション状態から正常にリジュームできない場合があります。

使いかた　モバイル

◆プロファイルの自動選択

起動したアプリケーションソフトを自動判別し、最適なプロファイルに自動的に設定する機能です。例えば、Windows標準のゲームソフト「ソリティア」が起動すると、自動的に「ゲーム」のプロファイル設定で省電力機能が働きます。*

*複数起動している場合はアクティブなアプリケーションソフトが優先されます。

バッテリライフ優先
パフォーマンス優先
ワードプロセッサ
スプレッドシート
プレゼンテーション
通信
ゲーム
✔ AC電源
パワーマネージメント オフ
プロファイル自動選択

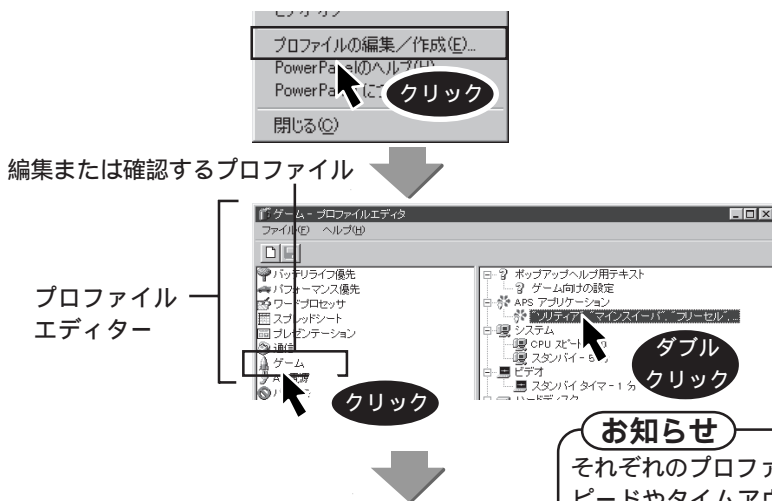
ACアダプターを接続している時とバッテリーパックを使用している時で、設定を別々に保持することができます。

お願い

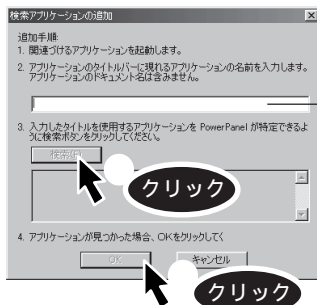
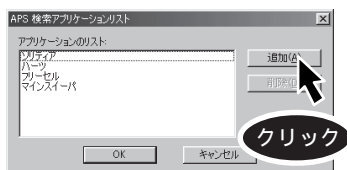
ファイルのダウンロードやデータの送受信を行う場合、「プロファイルの自動選択」を選ばないでください。

◆プロファイルの確認・編集

各プロファイルに登録されているCPUスピードやタイムアウト設定を変更したり、各プロファイルに市販のアプリケーションソフトを追加したりすることができます。

アプリケーションソフトを追加（削除）する：

お知らせ

それぞれのプロファイルのCPUスピードやタイムアウト機能の設定を変更することもできます。

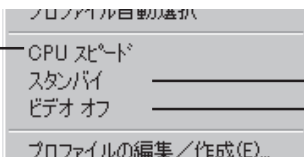
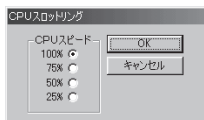
省電力設定をする

①追加するアプリケーションソフトを起動し、タイトルバーに表示される名前のとおり入力する。（半角、全角は区別されます。）

以降、画面にしたがって操作してください。設定したプロファイルは、いったん、他のプロファイルを選んだ後、「プロファイル自動選択」を選ぶと有効になります。

お知らせ

- 変更した状態を工場出荷状態に戻すには：
  1. PowerPanelのメニューから[閉じる]を選ぶ。
  2. [スタート]→[ファイル名を指定して実行]を選んで「c\util\psuite\pcfsav\restore.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
  3. 確認メッセージが表示されるので[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックする。
  4. [スタート]→[プログラム]→[Phoenix PowerSuite 98]→[PowerPanel]→[PowerPanel]を選んで、再度PowerPanelを起動してください。
- 「ファイル」メニューから「新規作成」を選び、新しいプロファイルを作成することができます。

◆インスタントコマンドを使う

4段階の速度調節ができます。*
25%が最も電力消費を抑えた設定です。

すぐにサスペンド状態に入ります。サスペンド状態に入る前に、念のため作業中のファイルを保存してください。

すぐにLCDおよび外部ディスプレイの電源を切ります。

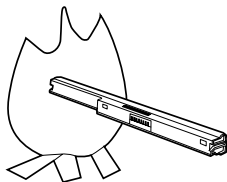
*インスタントコマンドで設定したCPUスピードは現在選択されているプロファイルに登録されます。

バッテリーパックを使う

ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。

バッテリーパックに関する注意 ⚠危険

火中に投入したり加熱したりしない

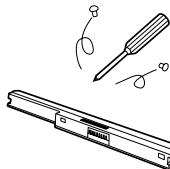
禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

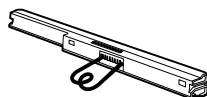
禁止

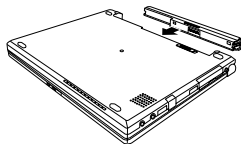
発熱・発火・破裂の原因になります。

クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしたりしない

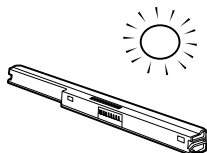
禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

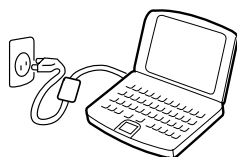
付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

CF-S51シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電・使用・放置をしない

禁止

発熱・発火・破裂の原因になります。

バッテリーパックを使う

バッテリーパックに関する注意 ⚠危険

指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱・発火・破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

- バッテリーパックは一般のごみといっしょに廃棄しないでください。
  端子をテープなどで絶縁してから、地方自治体の条例などに従い、廃棄してください。（本機のバッテリーパックは、リチウムイオン蓄電池を使用しています。）
- 交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。
- 水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。
- 端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。
- 万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

- 使用環境温度5℃～35℃の範囲で操作してください。
  使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- 通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

取り付けかた/取り外しかた

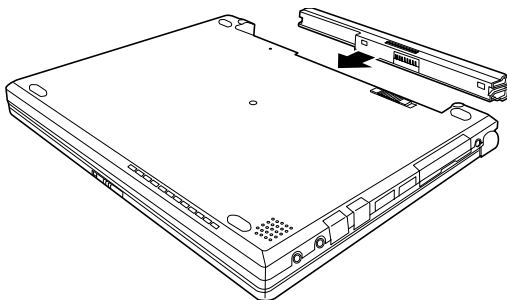
お願い

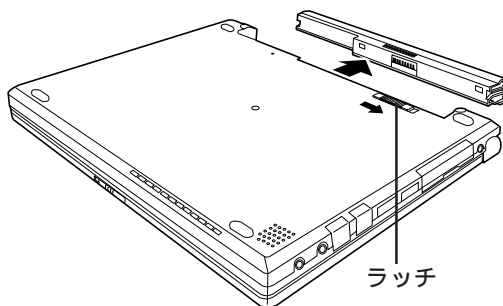
本機で使用できるバッテリーパックは、付属のバッテリーパックと以下の別売りのバッテリーパックです。その他のものは使用しないでください。
別売りバッテリーパック
標準バッテリーパック：　品番　CF-VZSU08J**（付属のバッテリーパックと同仕様）**
大容量バッテリーパック：　品番　CF-VZSU11J

1 操作を終わり（『取扱説明書』）、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

2 本体を裏返す。

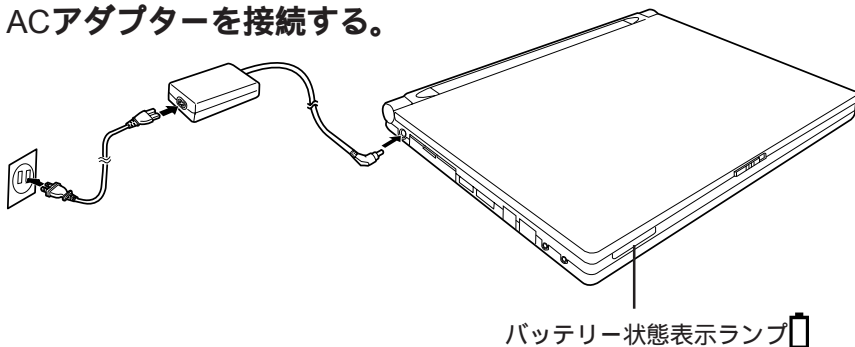
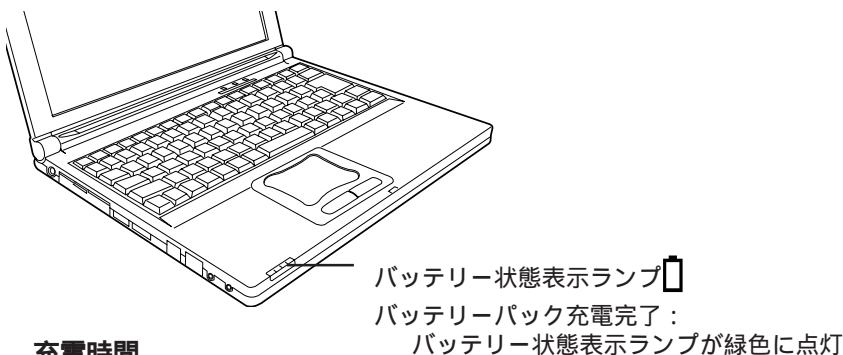
3 ●バッテリーパックを取り付ける。

バッテリーパックをカチッと音がするまでスライドし、差し込む。

●バッテリーパックを取り外す。

①ラッチを矢印の方向にスライドする。
②バッテリーパックを引き出す。

バッテリーパックを使う

充電のしかた

付属の標準バッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。
コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

1 ACアダプターを接続する。

2 充電状態を確認する。

◆充電時間

電源	入	約6時間*
	切	約2.5時間*

◆稼働時間（省電力モードでLCDバックライト輝度最低時）

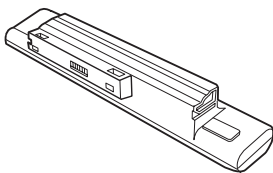
約1.7時間*

*付属のバッテリーパックおよび別売りの標準バッテリーパック（品番：CF-VZSU08）の仕様です。
また、使用条件により異なります。

お願い

- 長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30％～40％程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
- バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
- **本機では過充電を防ぐため、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90%前後になるまで放電してから充電するようにしてください。**
- バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。
- 使用環境温度（5℃～35℃）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できない場合があります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）このようなときは、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。
- 充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。

お知らせ

別売り大容量バッテリーパック（品番：CF-VZSU11）について：

◆充電時間

電源		
	入	約15時間*
	切	約6時間*

◆稼働時間（省電力モードでLCDバックライト輝度最低時）

約5.7時間*

*使用条件により異なります。

詳しくは、大容量バッテリーパックに付属の取扱説明書をご覧ください。
本機では、大容量バッテリーパックに付属の「システムアップデートディスク」を使ってシステムのアップデートをする必要はありません。

バッテリーパックを使う

バッテリー状態表示ランプについて

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯	・バッテリー残量なし 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプが消えていることを確認してください。 ・バッテリーの電圧低下 →下記「お願い」
オレンジ色に点滅	充電できない バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できません。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。

お願い

電圧低下による赤色点灯について

ACアダプターを接続しない状態で、消費電力の大きい周辺機器（コンピューター本体からPCカード経由で電源供給されるCD-ROMドライブなど）を使用した場合、バッテリー残量表示では十分あるにもかかわらず、バッテリー状態表示ランプが赤色に点灯することがあります。これは、周辺機器の使用でバッテリーの電圧が急激に下がり、バッテリーの保護機能が働いたために起こる現象で異常ではありません。このような場合には、必要なデータは保存し、すぐにACアダプターを接続してください。

バッテリー残量の確認

バッテリー残量を確認するには、以下の方法があります。

お知らせ

- バッテリー残量が少なくなったらACアダプターを接続してください。
- 電源が切れている状態でも、約120 mWの電力を消費します。標準バッテリーパックの場合、満充電していても約５日間でバッテリー残量がなくなります。

◆キー操作（Fn＋F9）による残量確認

電源が入っている状態でFnキーを押しながらF9キーを押している間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

バッテリー装着時（の一例）　　バッテリー未装着時

78%

（数値と、実際の残量は多少異なる場合があります。）

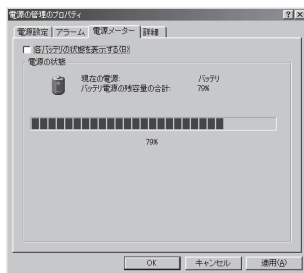
◆電源のプロパティによる残量確認 Windows 95

[コントロールパネル]→[パワーマネージメント]を選んで確認することができます。

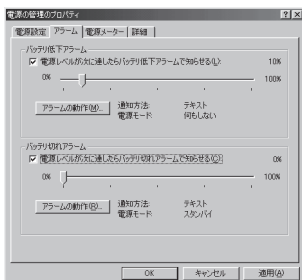
◆電源メーターよる残量確認 Windows 98

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「電源メーター」タブをクリックして確認することができます。

使いかた

モバイル

バッテリーパックを使う

◆アラームによる残量確認 Windows 98

アラーム機能により確認することもできます。
アラーム機能は、[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「アラーム」をクリックして設定します。

お知らせ

Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロにしている場合、アラームは鳴りません。

＜バッテリ低下アラーム＞

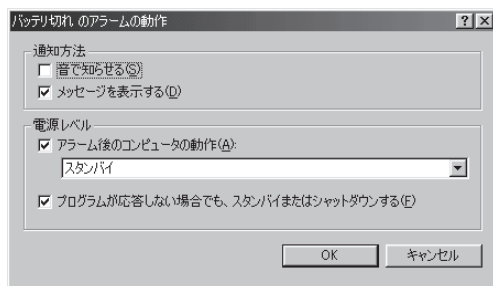
バッテリー容量が一定のレベルまで下がったら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「10 %」に設定されています。

＜バッテリ切れアラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルより下がったらアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「0 %」に設定されています。

お知らせ

アラームが鳴ったら
充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。

また、「アラームの動作」ボタンをクリックすると、「通知方法」と「電源レベル」を設定することができます。

通知方法　工場出荷時は「メッセージを表示する」のみ設定されています。

電源レベル　工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」（サスペンド）に設定されています。

お願い

「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合

- 「プログラムが応答しない場合でも、サスペンドまたはシャットダウンする」の左側の□にチェックマークを付けておいてください。
  また、シャットダウンまたはサスペンド状態になったときは、ACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、起動およびリジュームできません。
- 「バッテリ切れアラーム」の「アラーム後のコンピュータの動作」を「スタンバイ」（サスペンド）に設定した場合、バッテリー低下の警告画面が表示されたときは、ACアダプターを接続するか警告画面を閉じておいてください。ACアダプターを接続せずに警告画面を表示したままにしていると、コンピューターが強制終了され、ハードディスクのデータが消去されたり、起動できなくなったりすることがあります。
- 「シャットダウン」に設定すると、アラームが鳴った後、コンピューターが強制終了され、ハードディスクのデータが消去されたり、起動できなくなったりすることがありますので、選択しないでください。

バッテリーパックを使う

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。この機能を正しく働かせて、バッテリー残量を正確に表示させるため、以下の手順に従って、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。この操作は、お買い上げ後、一度は行っておいてください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

1 バッテリーパック装着後、ACアダプターを接続する。

キー操作による残量表示では、100%と表示されるのに、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯し続ける場合があります。異常ではありませんので、そのまま緑色になるまで充電を続けてください。

お願い

下記手順2の操作が完了するまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

2 バッテリー状態表示ランプが緑色になったら、放電ツールを実行する。

お願い

放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまではコンピューターを操作しないでください。

①コンピューターの電源を入れる。
② Windows 95 「Starting Windows 95 ...」と表示されたらすぐに F 8 を押す。
（わずかな時間しか表示されませんので、注意してください。）
Windows 98 「Press <F2> to enter SETUP」と表示されたらすぐに Ctrl を押し、メニュー画面が表示されたら手を離す。
（ユーザーパスワードを設定している場合は、パスワード入力後、約1秒以内に Ctrl を押してください。）
③メニュー画面で「Safe mode command prompt only」を選ぶ。
④ 半角／全角 を押す。
⑤次のように入力する。 c: Enter
cd \windows\command Enter
battref2 /g Enter
⑥確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

使いかた モバイル

バッテリー表示ランプが消灯する

↓

バッテリー表示ランプが赤点灯する

↓

自動的にコンピューターの電源が切れる

満充電状態で放電ツールを実行した場合、自動的に電源が切れるまでに約2時間かかります。

↓

充電が開始する

バッテリー状態表示ランプがオレンジ色点灯したら、コンピューターの電源を入れて使うことができます。

お願い

- バッテリー状態表示ランプがオレンジ色点滅する場合があります。しばらくするとオレンジ色点灯に変わりますので、そのままお待ちください。
- バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでACアダプターを取り外さないでください。

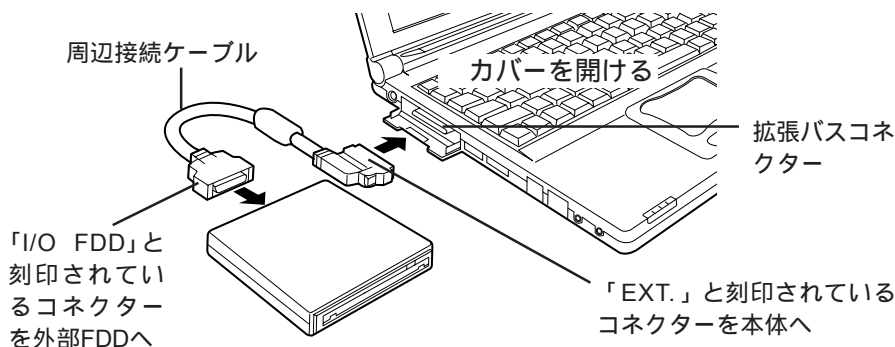
周辺機器を拡張する

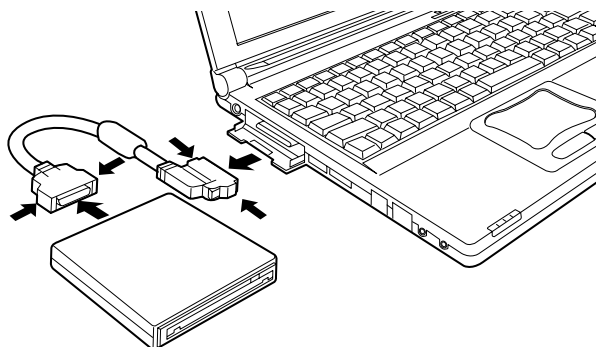
ここでは、別売りの周辺機器（フロッピーディスクドライブ、I/Oボックス、外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、PCカードのセットのしかたなどについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける／取り外す

フロッピーディスクドライブ（品番：CF-VFDU02）と周辺接続ケーブル（品番：CF-VCF001）をご使用ください。

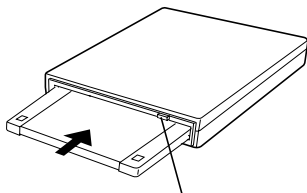
1 操作を終わり（→『取扱説明書』）、電源が切れたことを確認する。

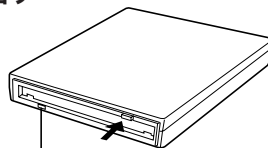
2 ●フロッピーディスクドライブを取り付ける。

②それぞれのコネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

●フロッピーディスクドライブを取り外す。

ロック解除レバーを押しながらそれぞれのコネクターを引き抜く

使いかた　拡張

◆フロッピーディスクのセット/取り出し

セットする

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

取り出す

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、取り出しボタンを押す。

お願い

- ドライブアクセスランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れる恐れがあります。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。

お知らせ

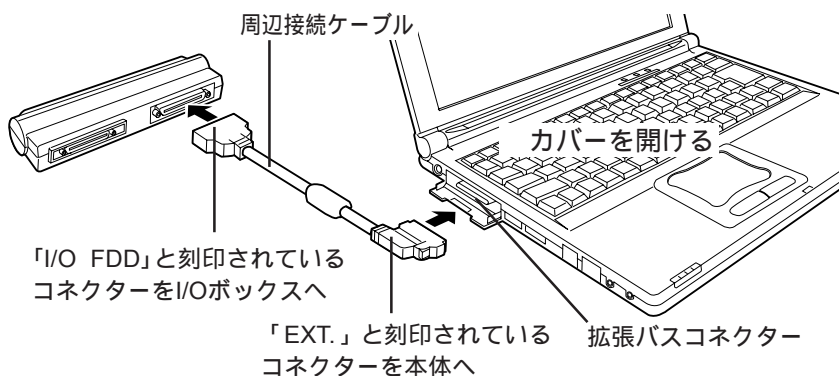
- **「読み出し」・「書き込み」とは**
  フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」、メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
- **フォーマット**
  新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」(初期化)といいます。
- **使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量**
  フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。
  2HD　－　1.44 Mバイト/1.2 Mバイト
  2DD　－　720 Kバイト
  1.2 Mバイトのフロッピーディスクを読み書きするには、ドライバープログラムをインストールする必要があります。詳しくは、「1.2 Mバイトのフロッピーディスクの読み書き」（→88ページ）をご覧ください。

周辺機器を拡張する

I/Oボックスを取り付ける／取り外す

プリンターや外部ディスプレイなどを接続するときは、まず、本体にI/Oボックス（品番：CF-VEBU01）またはミニI/Oボックス*（品番：CF-VEBU02）を取り付けてください。

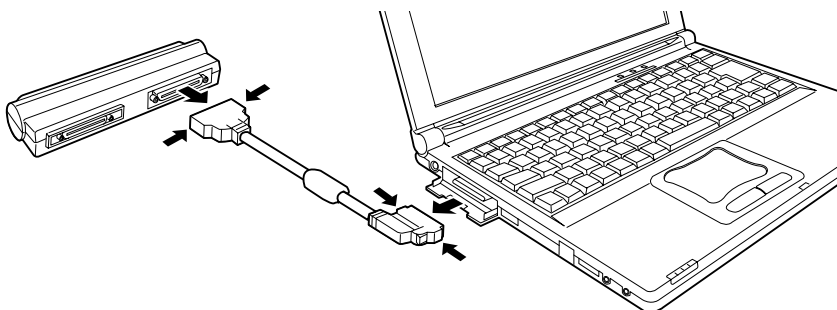
*ミニI/Oボックスは外部ディスプレイとマウス（またはキーボード）のみ接続できます。ミニI/Oボックス付属の取扱説明書をご覧ください。

1 操作を終わり（→『取扱説明書』）**、電源が切れたことを確認する。**

2 ●I/Oボックスを取り付ける。

②それぞれのコネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

●I/Oボックスを取り外す。

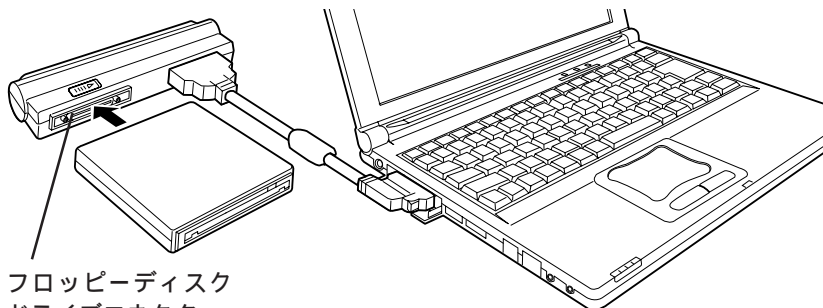
使いかた

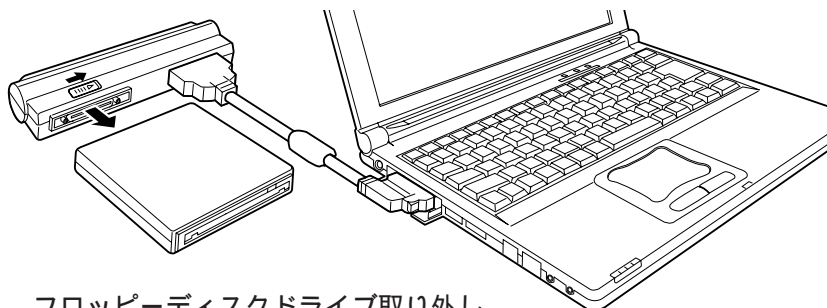
拡張

◆I/Oボックスとフロッピーディスクドライブの両方を取り付ける場合

ミニI/Oボックスにはフロッピーディスクドライブを取り付けることはできません。

1 操作を終わり（→『取扱説明書』）、電源が切れたことを確認する。

2 I/Oボックスを取り付ける。（→前ページ）

3 ●フロッピーディスクドライブを取り付ける。

コネクターの位置と向きに注意して、
両側のロックがかかるまで差し込む。

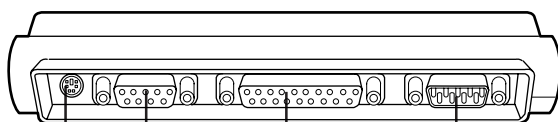
●フロッピーディスクドライブを取り外す。

①フロッピーディスクドライブ取り外しレバーを矢印の方向にスライドしながら
②フロッピーディスクドライブを引き抜く

周辺機器を拡張する

その他の周辺機器（別売り）を接続する

1 I/Oボックスを取り付ける。(→72ページ)

2 各周辺機器を接続する。

各周辺機器の設定・準備などについては、各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

IBM PS/2タイプのマウス、外部キーボードを接続します。

お知らせ

インテリマウス™とスマートポインターを併用する場合、インテリマウスのホイールスクロール機能は使用できません。ホイールスクロール機能を使用する場合はセットアップユーティリティーの「メイン」メニューで「スマートポインター」を[無効]に設定してください。ただしスマートポインターは使用できなくなります。

外部ディスプレイを使う

1 操作を終わる。（→『取扱説明書』）

2 I/Oボックスを取り付ける。(→72ページ)

3 外部ディスプレイをI/Oボックスのディスプレイコネクターに接続する。

（外部ディスプレイの設定・準備について
→外部ディスプレイに付属の説明書）

4 外部ディスプレイ、本機の順に電源を入れる。

（表示先の切り換え→91,101ページ）

5 モニターの設定をする。

Windows 95

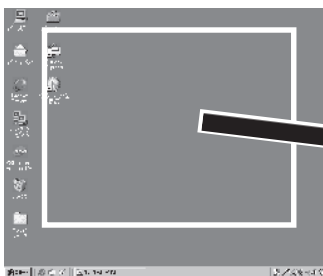
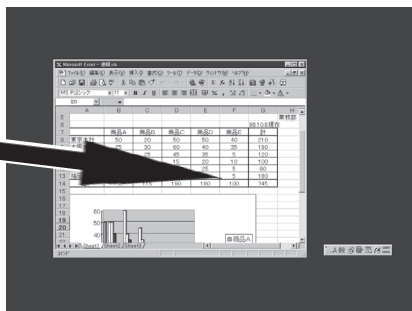
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックして、[ディスプレイの詳細]→[詳細プロパティ]→[モニター]で設定する。

Windows 98

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックして、[設定]→[詳細]→[モニタ]で設定する。

プラグ＆プレイでないモニターを接続した場合、[変更]を選んでモニターの設定を行ってください。

デュアルディスプレイモードを使う Windows 98

別売りの外部ディスプレイを接続している場合、デュアルディスプレイモードを使うと内部LCDと外部ディスプレイを連続した表示領域として使うことができます。

内部LCDから外部ディスプレイにウィンドウのドラッグ移動ができます。（上記はサンプル画面です。実際の画面と異なる場合があります。）

お知らせ

アプリケーションソフトによっては、デュアルディスプレイモードを使用できない場合があります。

◆デュアルディスプレイモードを設定する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。

2 [設定]→[詳細]→[NeoMagic]をクリックし、「デュアルディスプレイ設定」にチェックマークを付け、[OK]をクリックする。

3 コンピューターを再起動する。

「Windowsを再起動して変更が効果を表すようにします...」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックしてください。

お知らせ

再起動後、デュアルディスプレモードにならない場合
[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で外部ディスプレイ[2]を右ボタンでクリックし、「使用可能」メニューにチェックマークを付けてください。

4 画像の領域・色数を設定する。

[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で設定します。
内部LCDと外部ディスプレイにはそれぞれモニター番号が付けられています。内部LCD[1]と外部ディスプレイ[2]をクリックし、それぞれに対して画面領域・色数を指定してください。→79ページ

[1]：内部LCD

[2]：外部ディスプレイ

モニター番号を確認するには
画面のプロパティのモニター番号にカーソルを合わせて、スマートポインターの左ボタンを押したままにしておくと、その番号に対応したモニター側に右のように番号が表示されます。

5 拡張表示位置を設定する。

モニター番号をドラッグ＆ドロップし、実際の外部ディスプレイの配置位置にあわせると、操作がしやすくなります。

右側に配置する場

後側に配置する場合

左側に配置する場合

6 [OK]をクリックする。

- **デュアルディスプレイモードを設定すると**
  - 最大化ボタンをクリックするとどちらか一方のディスプレイに最大表示されます。
  - 最大化したウィンドウをもう一方のディスプレイに移動することはできません。
  - デュアルディスプレイモードを設定しても、電源を切った状態で外部ディスプレイを取り外し、起動するとデュアルディスプレイモードは自動的に解除されます。
  - デュアルディスプレイモードを使うと、各種アプリケーション（インターネットエクスプローラなど）のスクロール速度が少し遅くなります。
- **起動アプリケーションソフトが画面に表示されないとき**
  アプリケーションソフトが外部ディスプレイ（モニター2）にある状態、または外部ディスプレイでそのアプリケーションソフトを終了したあとで、拡張表示位置を変更したりデュアルディスプレイモードを終了したりすると、次回、起動したアプリケーションソフトが画面に表示されない場合があります。
  ＜拡張表示位置を変更したあと、表示されなくなった場合＞
  起動したアプリケーションソフトは変更前の拡張表示位置に表示されています。いったん、拡張表示位置を変更前の状態に戻してから、アプリケーションソフトを内部LCD（モニター1）に移動したあと、拡張表示位置を変更してください。
  ＜デュアルディスプレイモードを終了したら､表示されなくなった場合＞
  起動したアプリケーションソフトは外部ディスプレイ（モニター2）に表示されています。再度、デュアルディスプレイモードに設定し、アプリケーションソフトを外部ディスプレイ（モニター2）から内部LCD（モニター1）に移動した後、デュアルディスプレイモードを終了してください。
- **壁紙、アイコン位置がずれるとき**
  壁紙：　　壁紙を設定しなおしてください。
  アイコン：アイコンの自動整列を実行してください。
- **省電力機能を使うとき**
  省電力ユーティリティーソフトウエア「PowerPanel」の機能により、ディスプレイの電源が切れないように設定してください。この設定をしない場合、正常に表示できない場合があります。
- **マウスポインターにアニメーションポインターを使うとき**
  「コントロールパネル」の「デスクトップテーマ」でテーマを変更したときなど、サスペンドやハイバーネーション状態からリジュームしたときにエラーが発生することがあります。このような場合は、次の手順でマウスポインターを標準のポインターに変更してください。
  ①「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。
  ②「ポインタ」タブをクリックする。
  ③「デザイン」の中から「Windowsスタンダード」を選択する。
  ④ [OK]をクリックする。

使いかた 拡張

◆画面領域・色数について

デュアルディスプレイモードで設定できる画面領域・色数の組み合わせは以下のとおりです。

色数について

High Color：65,536色
True Color：約1,600万色

内蔵LCD	外部ディスプレイ 256色		
	640×480	800×600	1024×768
640×480　256色	○	○	○
640×480　High Color	○	○	○
640×480　True Color	○	○	○
800×600　256色	○	○	○
800×600　High Color	○	○	○
800×600　True Color	○	○	○
1024×768　256色	○	○	○
1024×768　High Color	○	○	-
1280×1024　256色	○	○	○

内蔵LCD	外部ディスプレイ 65,536色(High Color)		
	640×480	800×600	1024×768
640×480　256色*1	-	-	-
640×480　High Color	○	○	○
640×480　True Color	○	○	-
800×600　256色*1	-	-	-
800×600　High Color	○	○	-
800×600　True Color	○	-	-
1024×768　256色*1	-	-	-
1024×768　High Color	○	-	-

*1選択できますが外部ディスプレイの色数は256色になります。

周辺機器を拡張する

RAMモジュールを使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティーの「メイン」メニュー（→91ページ）で確認することができます。
工場出荷時は、64Mバイトのメモリーが搭載されています。さらに128 MバイトのRAMモジュール（別売り）を増設することによって最大192 Mバイトまでメモリー容量を拡張することができます。RAMモジュールを増設または取り外す場合は、以下の手順にしたがって操作してください。

お願い

RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内に溜まった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

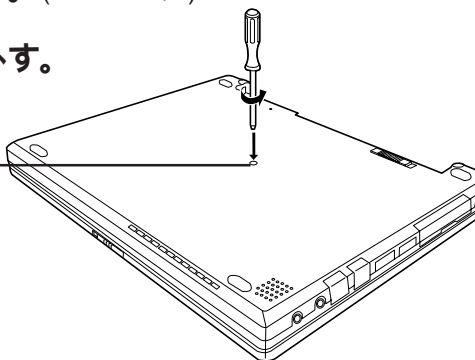
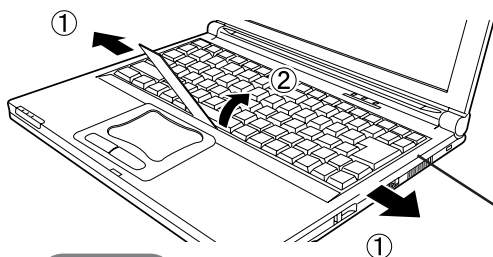
1 操作を終わる。（→『取扱説明書』）

お願い

サスペンドやハイバーネーションのときは、機器の取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。

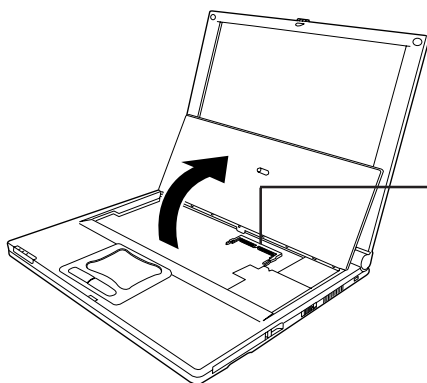
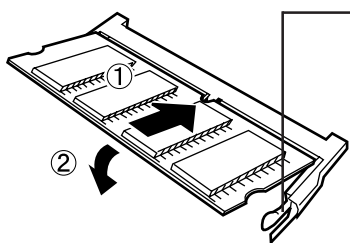
2 電源が切れたことを確認して、ACアダプターを取り外す。

3 バッテリーパックを取り外す。(→61ページ)

4 本体を裏返し、ネジを取り外す。

5 キーボードパネルを取り外す。

左右のフレームを順に外側に広げながら薄い定規などを、キーボードパネルとスマートポインターとの間に差し込んで、キーボードパネルを浮かせる。

お願い

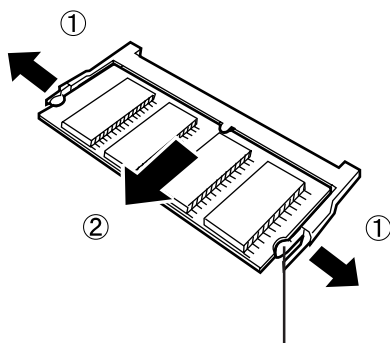
キーボードパネルをディスプレイ側に無理に押し倒さないでください。

6 キーボードパネルを開ける。

7 ●RAMモジュールを取り付ける

フック（左右にあります）がかかり、ロックされていることを確認してください。

お願い

- 向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。
- RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内にたまった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

使いかた

拡張

●RAMモジュールを取り外す

左右のフックを外側に広げてRAMモジュールを取り外してください。

8 キーボードパネルを取り付ける。

キーボードにややたわみを持たせて、右側のラッチをかけてから、左側のラッチをかけます。

9 キーボードパネルを閉じてネジを締める。

10 バッテリーパックやACアダプターを取り付ける。

11 コンピューターの電源を入れる。

推奨RAMモジュール
・64 Mバイト： 品番CF-BAS0064J SO-DIMM
・64 Mバイト： 品番CF-BAF1064J SO-DIMM
・128 Mバイト：品番CF-BAF0128J SO-DIMM

PCカードを使う

本機にはPC**カード用スロットが１つあります。**
PC**カードを使うことにより通信機能を利用したり、**SCSI**機器などの周辺機器を接続することができます。**
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3 mm**）、タイプⅡ（**5.0 mm**）、タイプⅢ（**10.5 mm**）の３つの種類に分けられます。**
本機で取り付けることができるのは、タイプⅠまたはタイプⅡのカードです。

お願い

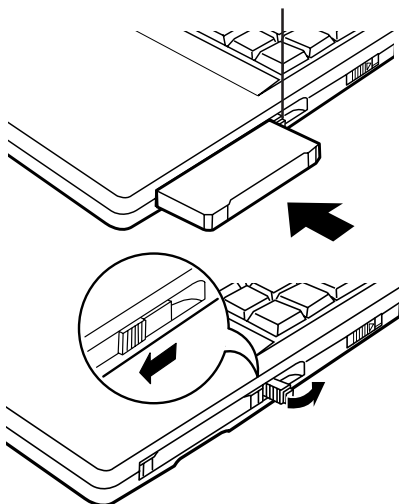
- **ご使用の前に、必ず、**PC**カードの消費電力を確認してください。**PC**カードスロットの許容電流（許容電流：**3.3 V**で**500 mA,5 V**で**400 mA,12 V**で**120 mA**）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。**
- PC**カードの操作方法は、**PC**カードに付属の取扱説明書をご覧ください。**
- **サスペンドやハイバーネーション時には、取り付け・取り外しは行わないでください。**
- **本機は**ZV**カードには対応していません。**

CardBus**タイプのカードおよびネットワークカード使用時のお願い**
取り外す際は、必ず電源を切ってから操作してください。

周辺機器を拡張する

◆PCカードの取り付け／取り出し

●PCカードを取り付けるとき

①カードをＰＣカードスロットにしっかりと差し込む。

②取り出しボタンを完全に引き出してから、折り曲げる。

③前方へスライドしてカードをロックする。

●PCカードを取り出すとき

お願い

カードを取り出す場合は、下記手順に従ってまず、カードの使用を終了してください。

①「コントロールパネル」の[PCカード(PCMCIA)]をダブルクリックし、「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」画面で取り出すPCカードを選んで、[終了]をクリックする。

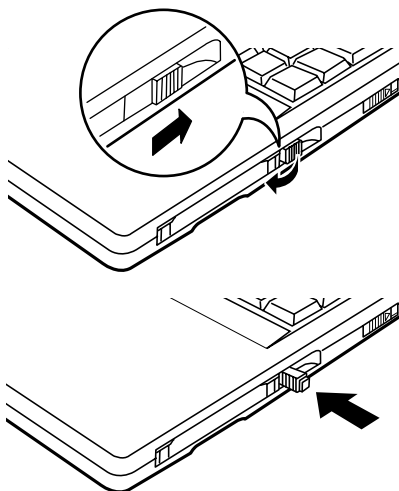
②「このデバイスは安全に取りはずせます」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックして「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」画面を閉じる。

①取り出しボタンをスライドしてロックしている場合は、あらかじめロックを解除（後方へスライド）する。

②取り出しボタンの折れ曲がり部分を伸ばす。

③取り出しボタンを押す。
カードが少し出てきますので、取り出してください。

使いかた

拡張

USB機器を使う Windows 95

USB機器を使用する場合は、デバイスマネージャの設定でUSBを使用可能に設定してください。（工場出荷時は、使用不可に設定されています。）

お願い

- USBを使用可能に設定している状態でサスペンドやハイバーネーション機能を使用しないでください。正常に動作しなくなります。
- デバイスマネージャの設定でUSBの設定を変更する前に、FDD以外の周辺機器を取り外してください。
（周辺機器を接続したまま操作すると、コンピューターが正常に動作しなくなる場合があります。）

USBのデバイスマネージャの設定方法

①「コントロールパネル」の[システム]をダブルクリックする。
②「デバイスマネージャ」をクリックし「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」の下の「Intel(r) 82440MX USB Universal Host Controller」を選んで[プロパティ]をクリックする。
③●USBを使用可能にする場合
「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックマーク✓を外す。
●USBを使用不可にする場合
「このハードウェア環境で使用不可にする」にチェックマーク✓を付ける。
④[OK]をクリックし、「システムのプロパティ」の画面で[閉じる]をクリックする。
⑤[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、「再起動する」を選択して[OK]をクリックする。

（次ページにつづく）

周辺機器を拡張する

USB機器の動作が不安定な場合 Windows 95

FDD以外の周辺機器を取り外してください。（周辺機器を接続したまま操作すると、コンピューターが正常に動作しなくなる場合があります。）
ただし、USB機器によっては（HUBユニットなど）、下記の操作を行っても、正常に動作しないものもあります。（Windowsの終了が正常にできないときには、USB機器を取り外してから終了操作を行うようにしてください。）

①[スタート] →[ファイル名を指定して実行] をクリックし、「名前」に「c:\util\usb\usbupd2.exe」と入力して[OK]をクリックする。
・「バージョンの競合」画面が表示されたら、「はい」を選んでください。
②[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、「再起動する」を選んで[OK]をクリックする。
③「コントロールパネル」の[システム]をダブルクリックする。
④[デバイスマネージャ]をクリックし、「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」の下の「Intel(r) 82440MX USB Universal Host Controller」を選んで、[プロパティ]をクリックする。
⑤[リソース]をクリックして、自動設定のチェックマーク✓が外れていることを確認する。

お知らせ

自動設定にチェックマーク✓がある場合
①「自動設定」のチェックマーク✓を外す。
②「I/Oポートアドレス」を選んだ後、「設定の変更」を選んで ↑ ↓ で値を「FC20-FC3F」に変更する。「競合デバイスなし」であることを確認して[OK]をクリックする。
③もう一度[OK]をクリックし、「リソースの設定がいくつか手動で調整されています。…続行しますか？」と表示されたら[はい]をクリックし、「システムのプロパティ」画面で[閉じる]をクリックする。
④[スタート]→[Windowsの終了]をクリックして、「再起動する」を選んで[OK]をクリックする。
コンピューターが再起動します。

マイクを使う

市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。外部マイク接続時、内蔵マイクは使用できません。

お願い

- コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプと3極プラグタイプを使用できます。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。
- 手を近づけたり、LCDパネルを閉じたりするとハウリングを起こす場合があります。その場合は、「ボリューム」画面で[オプション]→[プロパティ]をクリックし、「音量の調整」で、「再生」を選び、「表示するコントロール」で「マイクロフォン」にチェックマークを付けた後、「マイクロフォン」をミュートにするようにしてください。または、ハウリングを起こさないように、マイクとスピーカーの音量を適度に調節してください。「ボリューム」パネルはタスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックすると表示されます。
（タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「マルチメディア」で、「音量の調節をタスクバーに表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。）
- **Windows 95**
使用するマイクによっては、録音時の入力レベルが小さい場合があります。その場合は、[オプション]→[プロパティ]で「録音」と「マイクロフォン」にチェックマークを付けて[OK]をクリックした後、音量を調整してください。
それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
  1 タスクバーのをダブルクリックする。
  2 [オプション]−[プロパティ]をクリックし、「録音」を選んで[OK]をクリックする。
  3 [オプション]をクリックし、[トーン調整]にチェックマークを付ける。
  4 [トーン]をクリックし、「1(1) 20db マイクロフォンゲイン」の左側の□にチェックマークを付ける。
  5 [閉じる]をクリックし、「録音コントロール」の画面を終了する。
- **Windows 98**
使用するマイクによっては、録音時の入力レベルが小さい場合があります。その場合は、[ボリュームコントロール]→[オプション]→[プロパティ]で「録音」を選び、「マイク」にチェックマークを付けて[OK]をクリックした後、音量を調整してください。それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
  1 タスクバーのをダブルクリックする。
  2 [オプション]−[プロパティ]をクリックし、「録音」を選んで[OK]をクリックする。
  3 [オプション]をクリックし、[トーン調整]にチェックマークを付ける。
  4 [トーン]をクリックし、「1 AGC(1)」の左側の□にチェックマークを付ける。
  5 [閉じる]をクリックし、「録音コントロール」の画面を終了する。

1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書き

1.2Mバイトのフロッピーディスクを読み書きする場合は、以下の手順に従ってWindows用の３モードFDドライバーをインストールしてください。

Windows 95

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順に選び、[ハードウェア]をダブルクリックする。
2. 「ハードウェアウィザード」画面で[次へ]をクリックする。
3. [いいえ]を選んで[次へ]をクリックする。
4. 「ハードウェアの種類」で[フロッピーディスクコントローラ]をクリックして、[次へ]をクリックする。
5. [ディスク使用]をクリックし、「配布ファイルのコピー元」に「c:\util\drivers\3mode」と入力して[OK]をクリックする。
6. 「パナソニック ３モードフロッピーディスク」が表示されていることを確認し、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
8. ファイルのコピー画面で、「ファイルのコピー元」に「c:\util\drivers\3mode」と入力されていることを確認し[OK]をクリックする。
9. 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら[はい]をクリックする。

Windows 98

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順に選び、[ハードウェアの追加]をダブルクリックする。
2. 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で[次へ]をクリックする。
3. [次へ]をクリックする。
4. 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示されたら、「デバイスは一覧にない」をクリックして[次へ]をクリックする。（この画面は表示されない場合があります。）
5. [いいえ（一覧から選択する）]を選んで[次へ]をクリックする。
6. 「ハードウェアの種類」で[フロッピーディスクコントローラ]をクリックして、[次へ]をクリックする。
7. [ディスク使用]をクリックし、「配布ファイルのコピー元」に「c:\util\drivers\3mode」と入力して[OK]をクリックする。
8. 「パナソニック ３モードフロッピーディスク」が表示されていることを確認し、[次へ]をクリックする。
9. [完了]をクリックする。
10. ファイルのコピー画面で、「ファイルのコピー元」に「c:\util\drivers\3mode」と入力されていることを確認し[OK]をクリックする。
11. 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら[はい]をクリックする。

セットアップユーティリティー

ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティー（セットアップユーティリティー）について説明します。

起動する

1 Windows**を終了して再起動する。**

[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

2 「Press <F2> to enter SETUP」**が表示されているときに** F2 **を押す。**

お知らせ

- F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。その場合、Windowsを終了して再度やり直してください。
- [パスワードを入力してください]が表示されたら、パスワードを入力してください。

  ただし、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方が設定されている場合は、ここでユーザーパスワードを入力すると、下記の設定を行うことができません。
  - 詳細メニュー（→93ページ）
  - セキュリティメニューの[ユーザーパスワード設定]以外の項目
  - 終了メニューの[デフォルト設定する]

  すべてのメニューや項目を表示するには、スーパーバイザーパスワードを入力する必要があります。

必要なときに

セットアップユーティリティー

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

F1 :一般ヘルプが画面に表示されます

↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。

← → :「メイン」「詳細」「セキュリティ」「省電力管理」「終了」の各メニューを選ぶときに使用します。

F5 F6 :各項目の設定値を選ぶときに使用します。

Enter : ↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

F10 :設定を保存して終了します。

Esc :「終了」メニューが表示されます。

Tab :日時設定のとき、カーソルの移動に使用します。

終了する

1 「終了」を選ぶ。

2 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。

詳しくは99ページをご覧ください。
コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

必要なときに

メインメニュー

現在のメモリー容量やBIOSのバージョンなどを確認することができます。

コンピューターに設定されている日付と時刻を確認できます。
また、設定を変更することができます。

BIOS バージョン:	Vx.xx.Lxx
システム時間:	[xx:xx:xx]
システム日付:	[xxxx/xx/xx]
メモリーサイズ:	xxxxx KB
ハードディスク:	xxxxMB
Numlock:	[オフ]
スマートポインター:	[有効]
スピーカー:	[有効]
ディスプレイ:	[外部ディスプレイ]
拡張表示:	[無効]

92ページ

上記はデフォルト設定です。

800x600サイズ以下の画面をLCDいっぱいに拡張して表示する拡張表示機能の[有効]または[無効]を設定します。

スピーカーの[有効]または[無効]を設定します。

スマートポインターの[有効]または[無効]を設定します。外部マウスが正常に動作しない場合は、[無効]に設定してください。

起動時におけるテンキー（キー上に青色で印刷された数字など）の[オン]または[オフ]を設定します。

セットアップユーティリティー

◆ディスプレイ

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。[外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部LCD表示となります。

表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部ディスプレイ	内部LCD	同時表示
640×480 16色	○	○*1	○*1
640×480 256色	○	○*1	○*1
640×480 65,536色 (High Color)	○	○*1	○*1
640×480 約1,677万色 (True Color)	○	○*1*2	○*1*2
800×600 256色	○	○*1	○*1
800×600 65,536色 (High Color)	○	○*1	○*1
800×600 約1,677万色 (True Color)	○	○*1*2	○*1*2
1024×768 256色	○	○	○
1024×768 65,536色 (High Color)	○	○	○
1024×768 約1,677万色 (True Color)	○	○*2	○*2
1280×1024 256色	○	○*3	○*3

*1 画面の中央に小さく表示されますが、セットアップユーティリティーで「拡張表示」を[有効](→91ページ)に設定すると画面いっぱいに表示することができます。

*2 内部LCDには、約1,600万色までの表示が可能です。ディザリング機能を使用して実現しています。

*3 画面全体の一部（1024×768の範囲）が表示されます。
カーソルを画面の端に移動すると、画面表示がスクロールします。

お知らせ

Fn ＋ F3 で表示先を切り替えることもできます。

詳細メニュー

それぞれのポートの設定を行います。

プラグ＆プレイ：	[使用する]
シリアルポート:	[3F8/IRQ4]
赤外線通信ポート:	[338/IRQ5]
パラレルポート:	[378]
モード:	[ECP]
内蔵モデム：	[有効]
内蔵 LAN：	[有効]
レガシー USB：	[使用しない]

上記はデフォルト設定です。

レガシーUSB機器[*2]を[使用する]か[使用しない]かを設定します。

内蔵LANを[有効]または[無効]に設定します。

内蔵モデムを[有効]または[無効]に設定します。

パラレルポートのデータ送信方向を[ECP]、[EPP]、[単方向]、[双方向]のいずれかに設定します。

パラレルポートのポート設定[*1]を[378]または[無効]に設定します。

赤外線通信ポートのポート設定[*1]を[338/IRQ5]または[無効]に設定します。

シリアルポートのポート設定[*1]を[3F8/IRQ4]または[無効]に設定します。

[使用する]にすると、各項目の設定値をOS側がより最適と判断する値に自動的に変更することができます。
[使用しない]にすると、各項目の設定値をOS側が変更することができません。

[*1]割り込み要求(IRQ)とIOポートアドレス
[*2]電源を入れた後、Windowsが起動していない状態でも動作するUSB機器（マウス、キーボードなど）のことです。

セットアップユーティリティー

セキュリティメニュー

サスペンド状態のとき、内蔵モデムに着信があった場合に電源が入るリングリジューム機能の[有効]または[無効]を設定します。*2（→96ページ）

システムを起動するドライブを[A:/C:]または[C:]に設定します。

フロッピーディスクドライブの操作の[有効]または[無効]を設定します。*1

起動ドライブ:	[A:/C:]
フロッピー操作:	[有効]
内蔵モデムリングリジューム:	[有効]
内蔵 LAN Wake Up 機能:	[無効]
▶スーパーバイザーパスワード設定:	[Enter]
ユーザーパスワード保護:	[保護しない]
▶ユーザーパスワード設定:	[Enter]

上記はデフォルト設定です。

スーパーバイザーパスワードが設定されているときのみ設定できます。コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。
ユーザーパスワードでセットアップユーティリティーを起動すると詳細メニュー（→93ページ）、セキュリティーメニューの一部（起動ドライブ・フロッピー操作・内蔵モデムリングリジューム・内蔵LAN Wake Up機能・スーパーバイザーパスワード設定・ユーザーパスワード保護）、終了メニューの一部（デフォルト設定）を設定することができません。

ユーザーパスワードの変更を禁止します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

Wake Up機能の[有効]または[無効]を設定します。*3 （→96ページ）
この機能を使用するにはLANによるWake Up機能が可能なネットワーク環境である必要があります。

*1 「起動ドライブ」が[A:/C:]のとき、[有効]に設定されます。
*2 詳細メニューで「内蔵モデム」を[無効]にした場合は設定できません。
*3 詳細メニューで「内蔵LAN」を[無効]にした場合は設定できません。

必要なときに

◆パスワードの設定のしかた

1 セットアップユーティリティーを起動する。（→89ページ）

2 「セキュリティ」メニューを選び[スーパーバイザーパスワード設定]または[ユーザーパスワード設定]*を選んで Enter を押す。

* ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。

3 パスワードを設定する。

変更する場合は、現在のパスワードが必要です。

① 「新しいパスワードを入力してください」の[　　　]欄にパスワードを入力し、Enter を押す。
② 「新しいパスワードを確認してください」の[　　　]欄に手順①で入力したパスワードを入力し、Enter を押す。

お願い

- 入力したパスワードは画面に表示されません。
- 入力可能な文字は、半角の英数字で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl およびスペースキーなどの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。
- パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
- ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを同じパスワードにした場合、スーパーバイザーパスワードとして扱われます。

4 Enter を押す。

5 セットアップユーティリティーを終了する。（→90ページ）

◆登録済みのパスワードを無効にする

現在のパスワードを入力したあと、新しいパスワードに Enter のみ入力してください。

お願い

無断でパスワードを変更されることを避けるために
- セットアップユーティリティーを起動したままコンピューターから離れないでください。
- 「ユーザーパスワード保護」を「保護する」に設定してください。（→94ページ）

◆パスワードを設定時の起動

以下のようにパスワードの入力を促します。

セットアップ
ユーティリティー起動時：　パスワードを入力してください。[　　　　　　]

コンピューター起動時：

お願い

- コンピューター起動時のパスワード要求はユーザーパスワードを設定している場合に表示されます。
- **パスワードの入力を3回間違えると**
  - 電源オン時には、電源が切れます。
  - サスペンド状態からのリジューム時には、サスペンド状態に戻ります。
  - ハイバーネーションからのリジューム時には、ハイバーネーションに戻ります。

◆リングリジューム機能およびWake Up機能について

内蔵モデムリングリジューム機能 Windows 98
サスペンド状態のときに電話がかかるとコンピューターの電源が自動的に入る機能のことです。（ハイバーネーションからはリジュームできません）
リングリジューム機能を使用する場合は、電話の待ち受け状態を保持できるソフトウェアを起動しておく必要があります。
不在時のファクス自動受信や留守番電話機能を活用する際に便利です。

内蔵LAN Wake Up機能
ネットワークサーバーからコンピューターの電源を自動的に入れる機能です。
この機能を使用するにはLANによるWake Up機能が可能なネットワーク環境である必要があります。

（次ページに続く）

お願い

- 必ず、ACアダプターを接続し、電力の供給が可能な状態にしてください。
- LANが使用できる設定を行うとともに、「内蔵LAN Wake Up機能」を「有効」に設定してください。
- 内蔵モデムリングリジューム機能により、長期不在時にもかかわらず電源が入ったままになることを避けるために、省電力ユーティリティーウェア「PowerPanel」で受信完了後、再度サスペンド状態になるようなプロファイルを新規に作成・設定することをおすすめします。その際「プロファイル自動選択」を選ばないようにしてください。
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用しない場合は、セットアップユーティリティーで「内蔵モデムリングリジューム」を「無効」に設定することをおすすめします。
- 内蔵モデムリングリジューム機能は、電話がつながるまで時間（リジュームで起動する時間相当）がかかります。リジュームを行うには通常の電話呼び出しよりも長く呼び出しを行ってください。
- LCDパネルは開けておいてください。LCDパネルが閉じられている状態で、セットアップユーティリティーの「省電力管理」メニューの「パネルスイッチ」が「サスペンド」または「ハイバーネーション」に設定されているとこれらの機能は使用できません。
- パスワードが設定してあり、「起動時のパスワード」が「有効」に設定してある場合でもサスペンド状態から内蔵LAN Wake Up機能によって起動する際は、パスワード入力は要求されません。
- 内蔵LAN Wake Up機能は、以下の場合は動作しません。
  - MS-DOSモード上でサスペンドまたはハイバーネーションにしている場合
  - 4秒間電源スイッチをスライドして電源を切った場合
- Windows 98
  内蔵モデムリングリジューム機能および内蔵LAN Wake Up機能を使用する場合、ユーザーパスワードを設定したり、[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを入れないでください。

詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

必要なときに

省電力管理メニュー

電源オン時に、コンピューターの電源スイッチをスライドしたときの動作を[サスペンド][ハイバーネーション][パワーオフ]のいずれかに設定します。

パワースイッチ:	[サスペンド]
パネルスイッチ:	[LCD オフ]

LCDパネルを閉じたときの動作を[LCDオフ][サスペンド][ハイバーネーション]のいずれかに設定します。

<サスペンドを選んだ場合>

LCDパネルを閉じると、サスペンド状態になる。

↓

LCDパネルを開けると、リジュームする。
（LCDパネルを閉じる以外の方法でサスペンド状態にした場合は、LCDパネルを開いてもリジュームしません。）

<ハイバーネーションを選んだ場合>

LCDパネルを閉じると、ハイバーネーション状態になる。

↓

LCDパネルを開けて電源スイッチをスライドしたら、リジュームする。

<LCDオフを選んだ場合>

LCDパネルを閉じると、LCDの電源が切れる。

↓

LCDパネルを開けると、LCDの電源が入る。

お知らせ

Windowsは独自で省電力を制御する機能を持っているため、サスペンドやハイバーネーションに入れない場合もあります。

終了メニュー

設定を保存して終了
設定を保存しないで終了
デフォルト設定する
設定を戻す
設定を保存する

セットアップユーティリティー起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

標準設定にします。(工場出荷状態)*

* ユーザーパスワードでセットアップユーティリティーを起動した場合、この項目は表示されません。

お願い

ユーザーパスワードが有効になっている場合は、Windowsが起動するまでにパスワードの入力が必要です。

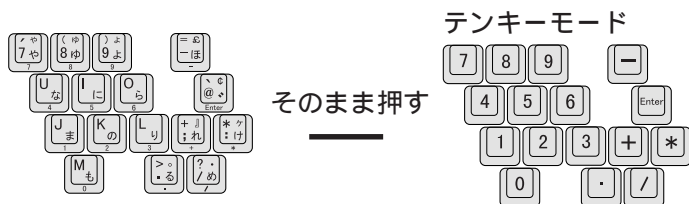
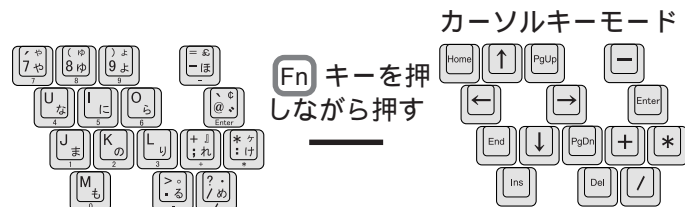
キーボードの操作

特殊キー

Esc、ScrLk ：アプリケーションソフトによって機能が異なります。

NumLk ：Shift を押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り換えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。

<NumLkインジケーター点灯時：テンキー有効時>

<NumLkインジケーター消灯時：テンキー無効時>

Pause/Break ：プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。Ctrl を押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。

CapsLock/英数 ：英数字入力になります。Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

Enter ：コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。

必要なときに

Shift ：通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。

Ctrl 、Alt ：このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

キーコンビネーション

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。この操作を「ホットキー」と呼びます。

Fn ＋ F2 ：LCDバックライトの輝度を切り換えます。キーを押すごとに5段階で輝度が切り換わります。
輝度が最大(明)のときには、 のアイコンが表示されます。
ACアダプターが接続されている状態と接続されていない状態のそれぞれの明るさを記憶させることができます。

Fn ＋ F3 ：画面表示の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。外部ディスプレイが接続されていない場合でも切り換え 処理が行われます。

Fn ＋ F4 ：スピーカーから出る音を消します。
再度押すと元に戻ります。

また、 Fn ＋ F5 あるいは Fn ＋ F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。

お知らせ
「ボリュームコントロール」画面（→87ページ）でミュートや音量ゼロにしている場合、スピーカーオンでも音は出ません。

キーボードの操作

Fn + F5　：スピーカーのボリュームを下げます。

Fn + F6　：スピーカーのボリュームを上げます。

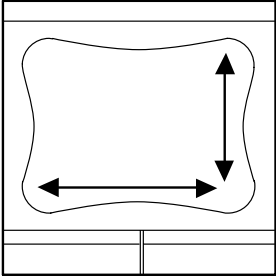
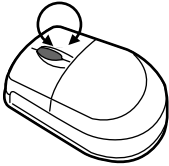
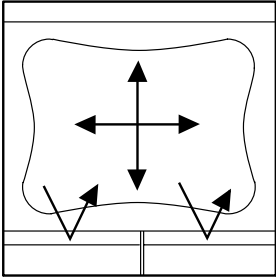
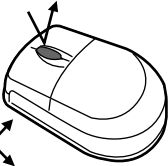
Fn + F7　：本機をハイバーネーション状態にします。

Fn + F9　：バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。
(詳しくは→65ページ)

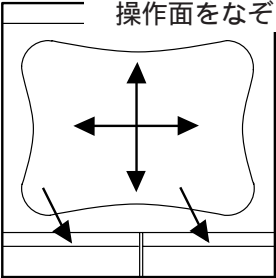
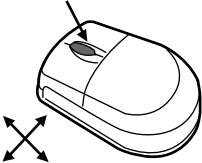
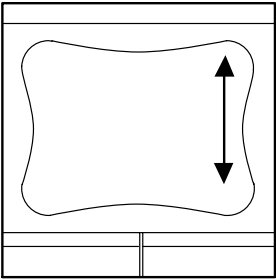
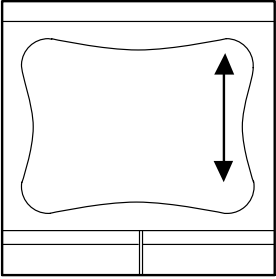
Fn + F10　：本機をサスペンド状態にします。

お願い

- システム起動中、あるいはサスペンドやハイバーネーション処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音がみだれることがあります。
- Fn + F3 および Fn + F4 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティーで設定されている状態に戻ります。

お知らせ

画面全体をクリップボードにコピーするには、Fn + F12 を押してください。また、選択されているウィンドウのみをコピーするには、Fn + Alt + F12 を押してください。

スマートポインターの操作

ここでは、スマートポインターとインテリマウスのスクロール操作を比較して説明します。
各機能の動作はアプリケーションソフトによって異なることがあります。
*下記文中の「原点」とは、ボタンやホイールを押した位置のことを言います。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
スクロール 文書を縦方向または横方向にスクロールします。		ホイールを回転させる
オートスクロール 文書を自動的にスクロールします。 スマートポインターから手を離しても、カーソルの形状が示す方向にスクロールします。 長い文書を読むときやデータを拾い読みするときなどに便利です。 また、スクロールの速度は、カーソルを原点*から遠くへ移動させるほど速くなります。	②スクロールしたい方向に操作面をなぞって手を離す ①２つのボタンを同時にクリックした後 ・オートスクロール機能を解除するには操作面を1回タップしてください。	①ホイールをクリックした後 ②マウスを動かす

必要なときに

スマートポインターの操作

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
パン 文書をさまざまな方向にスクロールします。ボタンまたはホイールを押している間、スクロールが続きます。スクロールの速度はカーソルを原点* から遠くへ移動させるほど速くなります。	②操作面をなぞる ①2つのボタンを押しながら	①ホイールを押しながら ②マウスを動かす
ズーム 文書の表示を拡大/縮小します。	Ctrl +	Ctrl +
データズーム 文書を表示したり隠したりなど、エクスプローラーの操作を実行します。	Shift +	Shift +

お知らせ

- スクロール機能はアプリケーションソフトによって動作しないことがあります。
- 4コーナーの●の操作方法については→21ページ
- カーソルが画面から消える場合があります。
  その場合、スマートポインターの操作面を軽く指先でなぞってください。
- Windows 98
  デュアルディスプレイモードを設定しているときに、PowerPanelの省電力機能（→55ページ）でCPUスピードを低速にするとカーソルの動きが悪くなります。

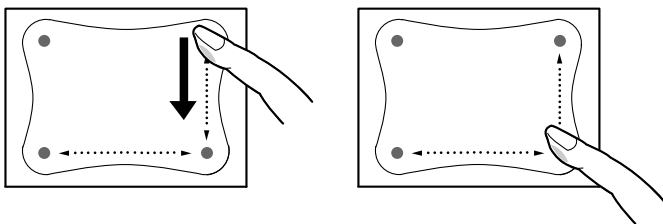
スマートポインターのキープスクロール機能

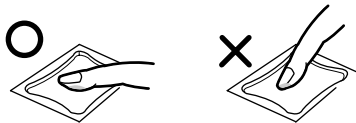
キープスクロール機能とは、スマートポインターのコーナーの●（アクションポイント）を押し続けることで、画面をスクロールさせる機能です。

- スマートポインター右側の縦矢印を、上（下）方向にこすった後、そのまま右上（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。
- スマートポインター下側の横矢印を、左（右）方向にこすった後、そのまま左下（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。

◆キープスクロール機能使用時のコツ

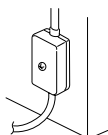
指の腹を使って、ゆっくりと矢印部をこすり、コーナーの●で指を止める。

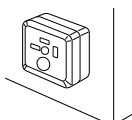
（下方向へのキープスクロール例）

- 指を立てた状態で操作すると、うまくスクロールすることができません。
（ペンやつめなどでは反応しません。）

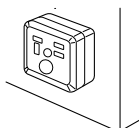
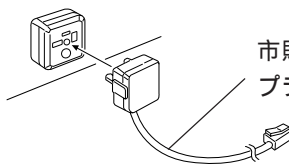
- コーナーの●以外の部分で指を止めると、スクロールが止まってしまいます。
- 早くこすりすぎると、コーナーの●で指を止めてもスクロールが止まってしまいます。

電話回線のコネクターの種類

◆コネクターの種類について

電話回線のコネクターの種類は、モジュラージャック、ローゼット、３端子（または４端子)ジャックなどがあります。電話回線とのつなぎ方は、端子の種類によって異なります。モジュラージャックの場合、付属のモジュラーケーブルをそのままつなぎます。（→40ページ）

ローゼットの場合

最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

３端子（または４端子）ジャックの場合

以下の２とおりの方法があります。

・最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
　資格のない方が工事をすることは認められていません。

・一方がモジュラープラグで、他方が３端子（または４端子）プラグのケーブル（市販品）を用意し、以下のようにつなぎます。

お願い

・本機のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

◆接続できない電話回線について

モデムは、日本国内の一般電話回線で使用してください。（→『取扱説明書』「安全上のご注意」）

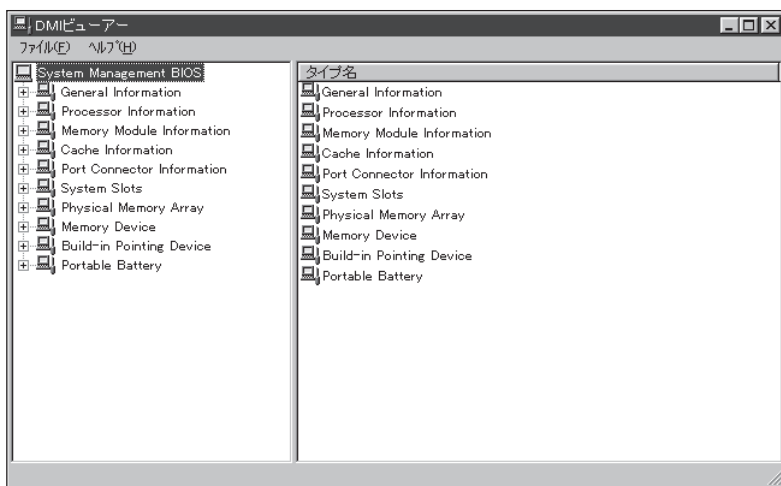
・会社、事務所等の内線電話回線等には、接続しないでください。
・以下の特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。

NTTのピンク電話の回線
ホームテレホン（接続ボックス）
玄関ドアホン等
日本国外の回線

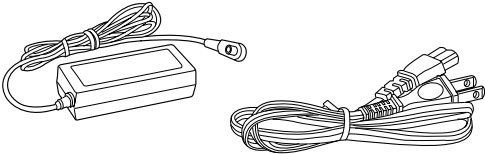
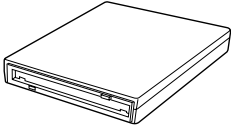
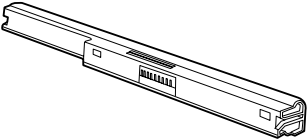
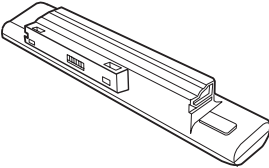
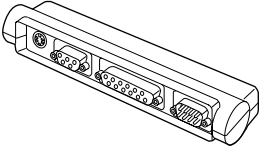
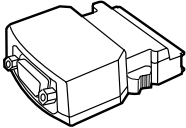
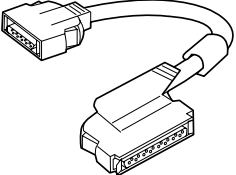
DMIビューアー

本機はDMI（Desktop Management Interface）の規格に準拠しています。
CPUやメモリーをはじめ、本機がサポートしているシステムの情報を知りたいときに使います。

DMIビューアーを起動する

[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[DMIビューアー]を選ぶと以下のような画面が表示されます。
項目をクリックすると詳細情報を表示します。

情報ファイルを保存する

表示している内容をテキスト形式（.txt）にファイル保存することができます。
DMIビューアーを起動し、保存したい情報を表示します。

1 ●表示されている項目を保存する場合
「ファイル」メニューから「表示中のデータを保存」を選ぶ。
●すべての項目を保存する場合
「ファイル」メニューから「すべてのデータを保存」を選ぶ。

2 ファイル名（およびフォルダー）を指定し、[保存]を選ぶ

必要なときに

別売り商品

ACアダプター（電源コード付）	フロッピーディスクドライブ
品番：CF-AA1527JB	品番：CF-VFDU02J*[1]

バッテリーパック	大容量バッテリーパック
品番：CF-VZSU08J	品番：CF-VZSU11J

I/Oボックス	ミニI/Oボックス
品番：CF-VEBU01J*[2]	品番：CF-VEBU02J*[3]

周辺接続ケーブル	RAMモジュール
品番：CF-VCF001J	・64 Mバイト： 品番CF-BAS0064J ・64 Mバイト： 品番CF-BAF1064J ・128 Mバイト：品番CF-BAF0128J

*[1] 別途、周辺接続ケーブルが必要です。
*[2] 外部FDD・外部ディスプレイ・プリンター・シリアル・拡張キーボード／マウスを接続できます。
*[3] 外部ディスプレイ・拡張キーボード／マウスを接続できます。

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

西暦2000年問題について

本パーソナルコンピューターのハードウェア（BIOSなどのファームウェアを含む）は、西暦2000年問題についての動作確認済みです。
西暦2000年問題については、下記のインターネット上の情報などもご覧ください。

・松下電器産業株式会社のパソコンの西暦2000年問題情報
　http://www.pcc.panasonic.co.jp/y2000/（2000年1月現在）
・マイクロソフト社の西暦2000年問題情報
　http://www.microsoft.com/japan/year2k/（2000年1月現在）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は､家庭環境で使用することを目的としていますが､この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると､受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
・漏洩電流について､この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

PCJ0018A_95/98

必要なときに